

第1回 関西元気な地域づくり発表会

近木川流域自然大学研究会

日本一汚い川からのまちづくり

郷に入ったら郷に従え

- ・二度のフーストウン 二級河川 近木川
- ・昔のまんまのええ川やん 近木川は 子どもが気づいた近木川のいいところ

道りから学ぶ

- ・子どもからの提案 遊べる川にしてください
- ・近木川流域自然大学 海→兵庫県市立自然遊学館、山→ほのけの里川の分枝づくり→子どもも夢中で
- ・環境学習で育つ子どもたち
- ・少くも川のうらやまも良い、生き物が一杯、自然が一杯
- ・人の心が優しいまち→事件がないから、生き物も優しいから
- ・まちづくりは郷土愛から
- ・大人より 子らの感性 みちひらく

第1回 関西元気な地域づくり発表会

江坂企業協議会

未知なる挑戦 競争から共創のまちづくりへ アドプト・ロードESAKA

地域づくり方針・目的

これまでのまちづくりを考えたとき、個々が強張り競い合うことでまちを創成させ、みんなが(競争)をしてきた感強いとおもわれます。江坂企業協議会では、より「きれい・安全・安心なまち」とすることを目的に、(共創)すなわち、まちで活動を営む様々な人々が連携・協力し、お互いの利点を高めながら、様々な活動によって新しい江坂のまちづくりに取り組んでいこうと考えています。

取り組み内容

- (経過) ・昭和49年 南改札口早期開設促進期成会として発足。
- ・その後、西南すいた企業協議会→江坂企業協議会に名称変更。
- ・自主財源 (加盟企業より入会金および年会費を徴収) に取り組む(目的に応じた様々な協議会等立ち上げ)
- ・「江坂まちづくり協議会」立ち上げ (地元自治会・学校・江坂駅と協力)
- ・アドプト・ロードESAKA (H14.3.1協定締結・延長2.5km)
- ①サインボード (「花のある街」結晶: 4つの小学校から作品募集)
- ②毎月1日はクラウンデー!
- ③ミニ・アドプト・フラワースポット (約250箇所) の世話人紹介 (年4回の会合にて)
- ④不法駐輪・駐車場の撤除啓発実施
- ⑤ゴミゼロ運動! 江坂音楽フェスティバル・クリスマスコンサート実施
- ・「神崎川野企業連絡会」立ち上げ (加盟する神崎川沿いの企業22社により)
- ・アドプト・リバー「水鳥」(H16.3.31協定締結・延長5.1km)
- ①グループワーク実施
- ②フラワー・ギャラード設置
- ③さく5家での開催
- ④H17.4.1 江坂駅周辺地域を緑地禁止地区に制定・啓発活動実施
- ・ホームページ「江坂っちしよう」開設 <http://www.esaka.gr.jp>

第1回 関西元気な地域づくり発表会

しらやま振興会

人とメダカの元気な里地づくり (里地里山保全再生事業)

地域づくりの方針・目的

【はじめに】
福井県越前市白山(しらやま)地区は日本海に位置し、司法山に囲まれたのが美しく自然が広がる農村です。主な特産物はお米とスイカで、特にスイカについては「しらやまスイカ」として民間団体から出荷されています。
私たちの地域では、昭和45年「12月」に「くちばしを折れたコノトリ」が飛来し、小学校の児童を中心に保護活動が行われ、翌年2月、捕獲され農園市に移送されました。その出来事は「くちばしを折れたコノトリ」という絵本にもなりました。
また、白山地区には国内唯一、最少絶滅危惧種をほぼ全数として希少な野生生物から1種類生息していることが確認されています。また、国の重要湿地500選、県の重要湿地30選に指定され、昨年6月には環境省の「里地里山保全再生モデル事業」実施地域として全国4万所のひとつにも選ばれました。

- 【目標】
希少な野生生物が生息する自然環境を人の交流と協働により保全活用し、人も生き物も元気が出る里地里山を創る。
- 【5つの基本方針】
- ①希少な野生生物が生息する自然環境の保全 (基礎の保全)
- ②地域外のひととの交流と協働 (地域の活性化)
- ③環境学習と自然体験 (活動の蓄積)
- ④希少な野生生物の保全を付加価値とした商品や仕事づくり (保全活用継続の糧)
- ⑤人材の育成 (人づくり)

取り組み内容

- ①基礎の保全
- ・安養寺町さき茸王国による希少種「さき茸」の保護・増殖活動
- ・集落単位での休耕田を活用したビオトープ造成活動
- ②活動の蓄積
- ・地元小中学校による環境教育の推進 (「ビオトープづくり」・生き物調査・まちづくり体験・ザリガニゴト大作戦など)
- ・ホトトギス観察会・川遊び・森で遊ぶほう・コノトリ「試走」一斉見送り事業 など
- ③人づくり
- ・里地里山セミナーの開催 (年5回開催)
- ・希少な野生生物保全監視員の養成
- ④地域の活性化
- ・エコキャンプ (都市と農村の交流) の実施
- ・Aコース: 8月 6日～ 8日テーマ「ビオトープを創ってみよう!」
- ・Bコース: 11月 19日～ 21日テーマ「湖池と里山の環境」
- ・安養寺町さき茸王国による「さき茸展」開催 8月 6日～ 10日
- ・市民参加の森づくり活動

第1回 関西元気な地域づくり発表会

特定非営利組織 熊野本宮

世界遺産を活用した蘇りの地域づくり～熊野健康村構想～

地域づくり方針・目的

- ・世界遺産「熊野」の保全と活用
- ・「熊野」アイデンティティの確立→「蘇りの聖地・熊野」
- ・世界遺産を活用し癒しや健康を通じた交流産業の創造
- ・持続可能な田舎型の経済システムを構築
- ・地域資源の活用、担い手としての住民、収入と生きがい

取り組み内容

- ・熊野本宮を拠点とする「熊野健康村構想」の推進 (産官民連携)
- ・熊野古道の「癒し・健康効果」の科学的検証 (県・国土交通省・厚生労働省)
- ・熊野古道を中核資源とした癒やしと健康の滞在メニューの開発、試行
- ・語り部の育成、蘇りの地にふさわしいスキルアップ研修 (熊野本宮語り部の会)
- ・グリーンツーリズムなどスローライフ志向への対応 (日本宮町)
- ・林業体験ツアー、伏拝地区による「じげのまちづくり」

第1回 関西元気な地域づくり発表会

リバークリーン・エコ炭銀行

加古川流域 129 支流の水質浄化プロジェクト

地域づくり方針・目的

加古川水系で最も河口近くに位置する準用河川・養田川は、区画整理事業にもなっており、付け替えられる予定でしたが、地元の中学生在がトライやるウィークの一環で養田川の生物調査に取り組んだ際に、住宅や工場などに囲まれた市街地を縫うように流れながらも、多くの生き物が生息する環境が残されていることが判明します。
この結果を受けて、地元町内会が中心になったまちづくり委員会を結成 (平成10年)、専門家や行政を巻き込んで、環境に配慮した川づくりを考えました。やがてこの取り組みが、行政を動かすことになり、コンクリート葺りの新河川については、川底を自然のままに残した工法に変更され、奥川となる旧河川については、その一部が公園やせせらぎとして再生・整備されることになりました。
さらに、平成15年3月には、この公園を拠点に炭を利用して河川環境の浄化に取り組み「リバークリーン・エコ炭銀行」を設立しました。森林や竹藪で間伐した材料をこの公園まで運搬し、簡易な炭化装置を使って炭に転換することで、河川の水質浄化に役立てようとする取り組みです。自分で焼くことができないでも、間伐材や竹を預ければ、銀行の方で炭にしてくれて、預け入れ量に応じて炭が還元されるシステムで運営されています。活動主体に関わらなくても、それぞれにできる関わり方で、河川の水質浄化や、森林・里山の再生に役立つつながることができる、気軽さが魅力の活動になっています。

取り組み内容

- 平成13年12月 「兵庫の川」サミットin加古川! 養田町内会主催で開催 炭化装置の取り組みが紹介される。
- 平成14年 7月 井戸知事が養田川を訪問。竹炭の試験埋設をはじめ実施。
- 平成14年 9月 はじめての炭焼き講習会を開催 (以降継続)
- 平成15年 3月 第1回炭フォーラム開催 (養田) リバークリーン・エコ炭銀行設立
- 5月 リバークリーン・エコ炭銀行加古川研究所設立
- 12月 養田川に竹炭を試験埋設
- 平成16年 2月 第2回炭フォーラム (播磨町) 7月 別府血池に竹炭を試験埋設
- 平成17年 2月 第3回炭フォーラム (北別府) 3月 第4回炭フォーラム (西脇市)

第1回 関西元気な地域づくり発表会

国土交通省 紀南河川国道事務所

紀南のみち・まちづくり

地域づくり方針・目的

住みよく、快適で、生き生きとしたよりよい地域をつつていくためには地域の人々が、地域に誇りを持ち主体となって、行政と一緒に「まちづくり」「地域づくり」を行うことが重要です。

取り組み内容

- 直接関係においては、NPO団体や地元自治会等と道路管理者、市町村と協定を締結し、清掃、緑化等を協働で行う「ボランティア・サポート・プログラム」を進めており、紀南河川国道事務所においても6団体 (平成17年11月現在) と協定を締結しています。
- 平成17年4月には、地域の活動団体が主体となって「未知音講近畿大会in紀南」を開催しました。
- 今後は「ボランティア・サポート」「未知音講」活動を通じて、産学官民協働のネットワークが強化されたことを受け、地域づくりの新しい取り組みとなる「シニミックバイウェイ」を進めていきます。

第1回 関西元気な地域づくり発表会

NPO法人 環境教育技術振興会(CAN)

大阪湾ダイビングスポット創造プロジェクト

地域づくりの方針・目的

- 「汚い海」の代名詞である大阪湾を、市民の手で水をきれいにし、多くの生き物たちが豊か豊かな海に回復させ、最終的には全国から多くのダイバーが訪れるダイビングスポットの創造をめざす。
- 地域の小学生を対象とした環境学習の場として活用を図り、未来を担う子どもたちに、自分たちにとって最も身近な海=大阪湾に興味と理解、愛着を持ってもらう。

取り組み内容

- 「海のゆりかご」と呼ばれる「アマモ (海草)」を移植し大阪湾の環境改善
- (1) 地元小学生を対象に環境学習会
 - ・環境学習会
 - 大阪湾の水質悪化や生き物の減少について
 - ・子ども達がアマモの苗を育てる
 - 「アマモ育成キット」を配布
 - ・ボランティアダイバーらが植え付けを行い、その様子を子供たちが見学。
- (2) その他、竹炭魚籠の設置や海底清掃など適時実施

第1回 関西元気な地域づくり発表会

三国湊魅力づくりプロジェクト実行委員会

三国湊の魅力づくり

活動方針・目的

- ・福井県「地域ブランド創造活動推進事業」
- ・地域資源の活用
- ・三国ブランドの創造

取り組み内容

- ・エコツアーの実施
- ・グリーンツーリズムの実施
- ・商品開発
- ・受け入れ態勢の整備

第1回 関西元気な地域づくり発表会

コウノトリ野生復帰推進連絡協議会 コウノトリ 再び大空へ

地域づくり方針・目的

我が国の野生コウノトリが最後まで生息していた兵庫県豊岡市において、コウノトリを再び大空に戻す「コウノトリ野生復帰推進計画」を進めている。計画では、コウノトリが住める環境こそが、私たち人間にとっても安全・安心で豊かな環境であるとの視点に立ち、人と自然が共生する地域づくりを進めつつコウノトリの野生復帰をめざしている。

取り組み内容

地域を挙げてのコウノトリの野生復帰に向けて、「コウノトリ野生復帰推進連絡協議会」を設置し、住民・団体・学識者・行政などの様々な主体が協議、連携を図りながら環境整備や普及啓発等に取り組み、野生復帰の推進を図っている。

【保護・増殖・放鳥】

- ・平成17年12月現在、県立コウノトリの郷公園で109羽を飼育
- ・平成17年9月に9羽を放鳥（5羽/自然放鳥、4羽/段階的放鳥）

【環境整備】

- ・田園の自然再生（転作田のビオトープ化、冬季湛水稲作の推進、魚道の整備）
- ・里山林の整備（林間歩道の整備、松・広葉樹の植林）
- ・河川の自然再生（護岸や河川敷を多自然工法整備、魚道整備による連続性の確保）

【普及啓発】

- ・コウノトリ未来国際会議等の各種会議、イベントや環境学習を活用した普及啓発
- ・「コウノトリファンクラブ」活動の推進

第1回 関西元気な地域づくり発表会

和歌山ほんまもん体験倶楽部 ほんまもんの体験のすすめ

地域づくり方針・目的

- ・地域づくり方針・目的
- ・住民の自信と誇りの回復「地域再生」「都市と地方の役割分担」
- ・新規雇用の創出、Uターン者への環境と生活基盤整備
- ・伝統産業の技と文化の継承
- ・わがまち遺産再発見と整備、自然環境保護、景観整備、国土保全

取り組み内容

- ・地域の地場産業や一次産業を柱とした心の交流を生み出す交流人口拡大
- ・交流から生まれる物流は信頼の証。ITを活用した産直マーケットの開拓
- ・旅の目的作り

第1回 関西元気な地域づくり発表会

神戸市 都市計画総局 区画整理部 六甲道駅北地区のまちづくり

地域づくり方針・目的

六甲道駅北地区は、JR神戸線六甲道駅の北側に位置する16.1㊦の区域である。この地区は、JR六甲道駅周辺には商店街や市場が立地し、JR神戸線、阪急神戸線と国道2号線により神戸方面、大阪方面へ結ばれた利便性が高い地域である。しかし、阪神大震災前は、狭小住宅の集積、住宅の老朽化、道路等年施設整備の遅れなどの課題があった。阪神大震災により、この地区の約7割、683棟が全半壊、焼失の被害を受けた。

神戸市では、震災の教訓を生かし災害に強い安全で、安心して暮らせる町作りを目指し、「六甲道駅北地区震災復興土地区画整理事業」を進めている。

取り組み内容

- 震災復興土地区画整理事業では、市民・事業者・行政による協働のまちづくりに取り組んでいる。
- ①まちづくり協議会の組織化
 - ②まちづくり専門家の派遣
 - ③現地相談所の設置

第1回 関西元気な地域づくり発表会

NPO法人 まちづくり役場

黒壁“長浜”～多様な主体が街を変える～

地域づくり方針・目的

昭和40年～50年代の高度成長期、華社会と大型店進出問題等で長浜においても中心市街地が衰退した。年の独自性や魅力作りを考える中で、市と民間がまちづくりの理念を共有していくための哲学といってもよい「博物館都市構想」がしよわ57年に策定された。「伝統を現代に生かして美しく住む」この構想により長浜のまちづくりが動するきっかけとなり、長浜市の再興、黒壁の保存活動とつながっていく。

取り組み内容

長浜は秀吉が開いたまち。秀吉の城長浜城は、徳川の時代に取りつぶされて彦根に移された。城の再建は市民の夢。総事業費10億円農地総額4億3000万円を市民が寄付し昭和58年に完成した。さらに5年度、町中に明治時代のあった銀行「国立百三十三銀行」を保存。第3セクター株式会社「黒壁」が設立された。ガラスを始めたことにより外から人が訪れ商店街に活気が戻ってきた。

第1回 関西元気な地域づくり発表会

NPO法人 なら燈花会の会 地域が支える祭「なら燈花会」

活動方針・目的

奈良には、古くからの伝統行事やまつりが、数多くあります。そのすべてが、社寺はもちろんのこと地元の人々が支え、育んできたからこそ今があります。なら燈花会も、単なるイベントではなく、奈良の地元の人々が支え合って、盛り上げて100年以上続く、夏の奈良の代表的なまつりに成長させようと考えています。

取り組み内容

世界遺産に囲まれた奈良公園一帯を、約一万五千個のろうそくの明かりで幻想的に演出するため、毎日お手伝いいただける当日ボランティア延べ約3000名の募集や、広報、警備、会場ごとの演出、設え、ライブの開催、来年のロウソク代のための、募金活動やオリジナルグッズの販売、地元商店街や社寺との打ち合わせや折衝等、奈良公園や環境問題に配慮したリサイクルろうそくの再生…とにかくたくさんあります。

第1回 関西元気な地域づくり発表会

宇治市 市民環境部 商工観光課 源氏物語のまちづくり

宇治市の紹介

- ・宇治市の概要（京都府南部に位置し、人口19万人の中核都市）
- ・観光政策推進体制（観光係3名、観光協会5名、観光ボランティア）
- ・宇治市の特徴（お茶、世界文化遺産、紙幣、硬貨）

源氏物語のまちづくりの取り組み

- ・ふるさと創世事業（平成2年、市民公募による事業選定）
 - ・紫式部文学賞、市民文学賞の創設（女流作家の登壇の位置づけ）
 - ・源氏まん事業の取り組み（文学賞表彰式、スタンブラリー、講座開設）
 - ・施設整備の取り組み（各施設をつなぐ「道」の整備、施設整備）
- 平成14年3月に「宇治市観光基本計画策定」

第1回 関西元気な地域づくり発表会

天神祭美化委員長 伴一郎氏 舟運による水都大阪の再生

地域づくり方針・目的

- 国の都市再生プロジェクトを受け、国、大阪府、大阪市、経済界などで「水の都大阪再生協議会」を設立し、大阪市内都心部を流れる堂島川、道頓堀川など「水の回廊」を対象エリアに平成15年3月、「水の都大阪再生構想」をまとめた。
- その他、水辺のイベントとして、「光のルネサンス」を冬に開催し、ライトアップされた中之島でイルミネーションシップパレードやクルーズを実施している。

取り組み内容

- 「第3回正解水フォーラム」（平成15年3月）の開催を契機に、住民、NPO、ボランティアを中心となって、大阪市内河川でクリーンパレードを実施する。
- その他、これを拡張し行政、企業も一体となって「舟運まつり」として春、秋に継続的に開催している。
- その他、水辺のイベントとして、「光のルネサンス」を冬に開催し、ライトアップされた中之島でイルミネーションシップパレードやクルーズを実施している。
- 秋の舟運まつり 概要
 - ・期間 平成17年10月29日～30日
 - ・会場 大阪市北区南天満公園ほか（大川・中之島）
 - ・内容 舟運再現パレード、市場再現マーケット、体験クルーズ 水上レストラン（～11月6日）

第1回 関西元気な地域づくり発表会

(株)道頓堀スタジオジャパン

川の賑わいをまちの賑わいに～なにわコミュニティーズ～

地域づくり方針・目的

大阪ミナトは、近世上方文化発祥の地。近代は、モダンシティとしてカフェー文化、道頓堀ジャズをはじめモダン文化を発信し続けてきた文藝都市の中心地だった。「天下の台所」として有名食文化が花開き、大正14年「大坂宣言」とともに近代都市としての発展を続けてきた。その後大阪は、幾度も「曲がり角」を迎えながら、いつしかその輝きを失っていった。戦後は1970年万国博覧会を転機点として経済都市としての地位を築き上げ、

～五庫の賑に 芝居茶屋 通りを流れる「道頓堀川」と…賑のにおい、
千本木を出でて、カブに集まるは、文士に商賈に音楽家、
五色の旗に 酔い酔って 赤い灯、青い灯、緑の旗より輝きぬ。～
橋川節也編著「モダン道頓堀探検」創元社（表紙）

しかしながら、その輝きは本当に消滅したのであるか？
今この町にある店に、人に、通りや路地に…賑々と伝わるなにわ情緒と西暦2000年に創出されるOSAKAの魅力。水都大阪のシンボル「道頓堀川」にも集まる数多の人の、
まさに「ミナト」は、入場無料の博覧会場 *次東遊園地
「タワシターマ（ワークミナト）」この町を要する多くの人々によって文化集客エリアとして再生する。まちの人々に誇りを取り戻させ、町民が主人公となる集客観光ビジネスを展開して、まちぐるみ元気にしようではありませんか！

取り組み内容

「とんぼりリバークルーズ」～特区による整備事業が進む「とんぼりリバーウォーク」船着場を活用して道頓堀川（その他市内河川）遊覧観光の事業家へ向けての社会実験。
ガイドブックやホームページ等を通じての情報発信が活発になってきたにも関わらず、
「どこを、どのように楽しんでいるのか？分からない」という観光客のニーズに対応すべく、ガイドとともに「まち歩きツアー」を刊行コンテンツとして提供し、その旅路を歩かせるための調査取材と実証事業の遂行。
遊覧船事業とまち歩きツアーとの連携、再事業と地域（商店、商店街、施設）とのコラボレーションのあり方を実証実験中。

第1回 関西元気な地域づくり発表会

姉小路界隈を考える会

歴史的都心街区でのまちなか再生

地域づくり方針・目的

- ・会の設立 平成7年10月
- ・会の目的

豊かな歴史と伝統を有する姉小路界隈において、この地で育まれ、継承されてきた、優れた精神性（こころ）の再認識を行い、まちを支える人とのつながりを大切に、住みよい、安心して暮らせる環境作りや、まちに住み、働く人々に愛され、誇りに思える町並み作りなどを皆で考え、皆の手でまちづくりにつなげていくこと。

取り組み内容

- ・会の活動 会主催の様々なイベントを継続して実施している。→「灯りてむすむ姉小路界隈」「花と緑でもてなす姉小路界隈」等
- ・地域共生の土地利用検討会の取り組み（平成12年1月～平成14年8月）
- ・会設立の契機となったマンション建設用地を対象に、事業者と地元住民と共に検討する「パートナーシップ型まちづくり」を实践。
- ・「姉小路界隈町目録（平成版）」の策定（平成12年4月）
- ・「姉小路界隈地区・松長町地区建築協定」締結（平成14年7月）
- ・NPO法人「都心界隈まちづくりネットワーク」設立（平成15年1月）
- ・「姉小路界隈まちづくり協定」締結（平成16年9月）
- ・「姉小路界隈地区街並み環境整備事業」実施中（平成16年度から）

第1回 関西元気な地域づくり発表会

大小路界隈「夢」倶楽部

“煌く風 堺” 大小路界隈の創造的活性化に向けて

地域づくり方針・目的

大小路界隈「夢」倶楽部は、平成14年6月に設立し、大小路界隈で事業を営む事業者と住民で構成する会員148名が運営している「まちづくり市民団体」です。
地域づくりの方針は、由来ある大小路界隈の歴史的・文化的資産を継承し、街並みや風土を守り育て、新しい付加価値を生み出すことによる経済振興やこの町を愛する人々による地域振興、暮らしの質と町の魅力を増す文化振興を核とした“まちづくり”です。

取り組み内容

- 進取と挑戦の町大小路界隈（経済活動の活性化）
「南蛮 ガラクタ市」の開催/「夢浪漫本舗」deショップの開設（平成17年12月下旬）
- 甍れた街並みのまち大小路界隈（町並みの保全）
「大小路筋 イルミネーション」の点灯/「大小路筋 フラワーロード事業」の実施/
「大小路シンボルロードの景観形成（案）」の説明/「朝日港周辺の整備計画（案）」の提案
- 文化をはくくむまち大小路界隈（文化の育成）
「夢庵」サロン&ギャラリーの開設/「開口神社（海会寺）金庫井戸」の復活/
「地域幼稚園内での米づくり」の実施
- 知を集め、知を伝え、知を受け止める大小路界隈（情報の受発信）
「夢創庫」瓦版の発行/「夢創庫」deサロンの開設（平成17年12月下旬）

第1回 関西元気な地域づくり発表会

（社）奈良まちづくりセンター

奈良町の保全と再生～市民の手による持続可能なまちづくり～

地域づくり方針・目的

- ・元興寺界隈を中心に歴史的町並みの保全・再生と活性化を図る
- ・それらを通じて奈良のまちを持続可能で、住みやすく、活力あるものとしていく

取り組み内容

- ・道路問題で元興寺界隈が更に劣化することを憂えた14人の若者が1979年に奈良地域社会研究会を立ち上げた（5年後に社団法人化）
- ・まち界隈の約60%を奈良女子大学の協力を得ながら調査し、その成果を地元に関連するともに行政に政策提言をした
- ・その後も関連する調査活動や、地元の人々がまちの歴史と暮らしを思い起こす活動を積み重ねた

第1回 関西元気な地域づくり発表会

からほり倶楽部

空堀商店街界隈長屋再生プロジェクト

地域づくり方針・目的

- 美しく歴史のあるまちの保存、再生
- イキイキとした活力あるまちづくり
- 新旧世代、文化の共生
これらの考え方をもとにして「まちのあり方」を問いただそうとしています。

取り組み内容

- 長屋物件説明会
- 長屋再生事業「怒」「練」「萌」など
- 「からほりまちアート」の企画・運営
- 「直木三十五記念館」運営支援
- その他、広報活動および交流活動

第1回 関西元気な地域づくり発表会

NPO法人 長堀21世紀計画の会

「御堂筋を人間のためのにぎわいとゆとりの舞台へ」

地域づくり方針・目的

「御堂筋にぎわい空間作り（御堂筋オープンフェスタ）」は「御堂筋」を活用したイベントを通じて、地域活性化の面的広がりを持続的なまちづくりの組織の形成を目的とするものである。

平成14年の都市再生緊急整備地域の指定、および地域のまちづくり活動の気運が高まる中、平成15/16年に社会実験として、本年度は本格実施として開催されることとなった。

取り組み内容

新橋交差点南側から難波交差点北側（約900m）を車両通行禁止とし、幅員約44mの御堂筋を自由に散策しにくい空間を提供した。イベント内容は、区間を4つのエリアに分け、周辺の街の特性に合わせたイベントを地元が主体となって企画・運営した。また、開催前の6日間にわたりボランティアや地元関係者など約170名が参加し、約9,000枚の工を取り付け、放置自動車に対する啓発活動もも行っている。

第1回 関西元気な地域づくり発表会

NPO法人 赤煉瓦倶楽部舞鶴

赤煉瓦のまち“舞鶴”

地域づくり方針・目的

「ふるさと舞鶴」を個性で魅力あるまちにするため、市内に残る明治・大正期の赤煉瓦建物が魅せられる集い、様々なまちづくりの活動を通じて、舞鶴の「姿」である歴史的建物を後世に引き継ぎ、赤煉瓦を生かしたまちづくりを寄与するとともに全国の赤煉瓦に縁のある都市をつなぐ「赤煉瓦ネットワーク」の運営に参画し、全国の仲間と交流を深め、全国の赤煉瓦を生かしたまちづくりを支援することを目的とする。

取り組み内容

- ・市内の赤煉瓦倉庫の調査研究（赤煉瓦マップ、冊子、書籍の作成、ジオラマの制作）
- ・ライトアップ事業
- ・イベント開催（ジャズ野外コンサート、倉庫活用実践提案、冬季ライトアート事業）
- ・グラウンドワーク推進事業（赤煉瓦ロードの再生、日干し煉瓦制作）
- ・市内でのまちづくり講演会・支援活動
- ・ホームページの開設
- ・赤煉瓦保存基金の創設
- ・ホフマン黒活用計画の策定
- ・市政記念館（赤煉瓦倉庫）の管理運営受託（平成18年度～）

第1回 関西元気な地域づくり発表会

（株）伏見夢工房

地域資産を活かしたまちづくり・ひとづくり～十石舟の復活と酒造の活用～

地域づくり方針・目的

- 郷土愛づくり
まちに眠る数多くの地域資産を再認識し組み立て活用し、それらを地域の方々と協働していく。
- 人づくり
様々なまちづくり活動を町全体に拡げ、地域の方々と活動を積み重ね、地域特有の多くのタウンマネージャーを生み出していく。

取り組み内容

- 地域資産（1）水辺空間での取り組み
 - ①十石舟：三十石船の運航
 - ②伏見丹丸流し
 - ③河川清掃
 - ④河川への紫陽花・紅葉・ユキヤナギの植樹
 - ⑤河川ライトアップ
- 地域資産（2）酒蔵を活用した取り組み
 - ⑥酒蔵通り花燈籠ライトアップ
 - ⑦伏見のご案内どころ伏見夢百景の運営
- 人づくり
 - ⑧京都伏見ユニオア河川レジャー活動
 - ⑨We Love Fushimiクラブの設立

第1回 関西元気な地域づくり発表会

大津市 都市計画部

座・大津

地域づくり方針・目的

大津市はどのように再生しようとしているのか？
「座」開設（2003/06）
活性化というみこしの担い手が集まる座
座の取り持つ様
市役所ではなく市民役所としての座

活動内容

- やる気づくり わいはい会議（2003/06～11）
- 大津まちなか元気回復委員会（2003/12）
- 研究会（2004/01～）
- 浜大津春待ち灯り（2004/02～）
- 都市再生大津校（2004/02 2004/12）
- 大津市まちづくりパワーアップ事業（2004/04～）

住みたい、住み続けたいまちを目指して

- ①明日都浜大津の再生
- ②社会教育会館・町屋といった歴史資産の保存・利活用
- ③まちの回遊性の向上と住み続けるまちの種づくり

知らせて、知っての機会づくり

第2回 関西元気な地域づくり発表会

NPO 囲炉裏

田辺市中辺路町の世界遺産を活かしたまちづくり

活動方針・目的

ふれあいと交流を深めながら、心の温まる魅力ある地域社会づくりをめざして、時代のニーズにあった、ユニークでキラリと光るふるさと活動を推進する事を目的とする。

活動内容

基本的には、なんでも良い。上記キラリと光るふるさと活動を推進する事を目的とする。に照らして活動内容を決定する。
これまでは、高京集落の未来づくり事業・・・そば打ち、緑の植樹事業
世界遺産関連事業・・・知事と子どもたちのウォーク、歌碑の建立世界遺産報告祭、熊野山神祭り、古事奉仕活動
その他・・・愛鳥週間集まり、地域づくり講演会、市長とのまちづくり懇談会など
これからは・・・文化保存事業、行政と協働でシニーク日本風景街道事業

第2回 関西元気な地域づくり発表会

「みちカフェ」管理分科会

女性の力を活かした道づくり～山里の再生に向けた「みちカフェ」の取り組み～

活動方針・目的

「みちカフェ」は、第一回～第176号名産産物の産地(住む一人ひとりが集まり「道づくり」に関する検討や調査を行っている)団体です。もともとは「道づくり」に生活者である女性の視点を活かしたい」という富士交通芸術専門学校講師の呼びかけで始まり、平成15年11月に設立された団体ですが、3年の活動を経て、現在はメンバーそれぞれが希望するテーマ(道路管理、道路整備)に分かれ、自主的な活動を行っています。
目指しているのは、その道の管理運営を主とする管理分科会の活動です。管理分科会では平成16年度に「みちカフェ」メンバー全員で考えた「みちカフェ」(道づくり)の事業計画(活動)を行っています。その計画の遂行を主とするのが各産地活動のための自然が変容された自然環境(兵庫県高砂市山崎町)の産地活動(呼称:みちカフェ計画地)です。管理分科会ではこの産地活動の山々と同じ山(コナラ林)に居るため、「地域性産物による植樹及び植樹に関する活動」を進めています。

活動内容

管理分科会では、メンバーだけでなく地元の方々にも協力頂き、以下の活動を行っています。
1 管理分科会メンバーによる産物の産地活動
管理分科会では「みちカフェ計画地」に植えた苗木の水まきや除草等の継続管理の活動を行っています。幹線はメンバー11人が4グループに分かれローテーションを積み、週1回(月曜日の1回)の活動をしています。平成18年の夏は地元の福祉施設や個人会にも協力頂き、週に2回の活動を行いました。また、2ヶ月に1回はメンバー全員が集まる定例会を行い、苗木の管理に関する報告や今後の相談、イベントの企画等を行っています。
2 地域住民の方々と共に行う「植樹イベント」
産地活動の産地活動(産地活動)に植えた苗木を植える地元住民参加型の「植樹イベント」を行っています。すでに101回植樹イベントを平成18年2月25日に実施し、「みちカフェ」メンバー、地元の小学生が保護者、福祉施設の方々、自治会・婦人会のメンバー(第1回植樹イベント)の山々から集めた約20本のコナラ、ヤマザクラ等の苗木を植えました。
3 地元の児童と共に学ぶ「森の学校」
産地活動の産地活動(産地活動)に植えた苗木を植える地元住民参加型の「森の学校」を開催しています。「第1回森の学校」を平成18年10月7日開催し、一般公募で集まった計18人の方々とともに地域の産物の産地活動と産物の産地活動を行いました。また、この活動を小学校の総合学習に展開した「森の学校 in school」を平成18年11月6日及び10日に地元の2つの小学校で開催し、3年生の児童約200人に約400本のドングリを渡して頂きました。

第2回 関西元気な地域づくり発表会

大阪府簡易宿所生活衛生同業組合 大阪国際ゲストハウス地域創出委員会 西成区あいりん地区の外国人旅行者を活かした地域づくり

活動方針・目的

西成区あいりん地区(通称・釜ヶ崎)に最盛期で約200軒あった簡易宿所(簡宿)は、日雇い労働者の高齢化とP13派増設の建設不況を受けて、1990年代半ばから、日雇い労働者が減少するなかで若年層生活者が増えるという地域問題への対応を迫られてきた。その結果として、21世紀に入り、90軒余りの簡宿が従来の日雇い労働者向けに居住を前提とし、60軒余りが生活保護受給者向けに改装マンションやサポーターハウスに転換し、残り約30軒は廃業・業種転換するという構図が形成された。10、20年後のあいりん地区をどうするか。若い日雇い労働者層が新たに流入し続けるとは考えにくく、労働力0の生活保護受給者も減少して行くであろう。若い世代が入れ替わらないままに、大阪府簡易宿所は2005年から大阪国際ゲストハウス地域創出委員会(OIG)を設け、欧米からの(ツックリナー)個人自由旅行者やアジアからの若者、ファミリーなど、新たな顧客層に向けた実証的な取り組みを13軒の簡宿で始めた。
OIGの活動方針は、簡宿の活用を最大限活用して無断転居をせず、良質な宿泊施設と簡宿が共存し続けるという利益を活かして、交通を改善する外国人旅行者を積極的に受け入れ、アウトリッチを推進し、簡宿を本来的な宿泊施設として再生する道筋を模索することにある。OIGの活動目的は、名称からも明らかである。単に外国人旅行者を受け入れるだけでなく、近隣の商店街や町内会・NPO・行政・大学などと協働して、外国人旅行者のニーズを総合的に満たせる国際ゲストハウス地域を創出することにある。OIGの活動は、あいりん地区のまちづくりだけでなく、新たな気運をうみだす一方で、それにとどまらず、今や高野線や大阪をのりこめ、外国人旅行者の暮らしを介在させて、地域の再生や地域イメージの改善を促すものである。

活動内容

OIGは外国人の個人自由旅行者という新たな顧客を開拓するため、様々な活動を行っている。まず、13軒の簡宿を紹介するパンフレット「大阪のあいりん」を英語・漢語・韓国語で作成し、観光関係者など大阪各所の観光案内所に配布している。そのほかには大阪大学校内外で、各町では大阪府の協力を得て、また、OIGのホームページ(<http://www11.ocn.ne.jp/~ecotom/sir/og/index.html>)も立ち上げ、J/POP同様、三方協賛で情報発信を行っている。最近では、近隣の商店街や町内会、釜ヶ崎町内会フォーラムなど地元NPOと情報交換して連携を強めるとともに、大阪近郊および京都・奈良といった観光地の情報提供も行い、松村研究室と協働してOIGの国際ゲストハウスでも実証的な取り組みを行った。
一連の活動の結果として、外国人旅行者の増加は顕著に伸びてきている。OIGに加盟する5ホテル(ホテル中央グループ)の統計によると、2004年度の900泊のうち2005年度の22、000泊と急増し、2006泊は35、000泊に達する勢いである。外国人旅行者が増えるにつれて、平成17年12月に開設した釜ヶ崎4年目のメンテナンスの取付申し入れが相次いだ。地域イメージの改善に資するよう積極的に対応してきた。近隣の商店街にも、大阪観光コンベンション協会提供のe-menuでのメニューの改善化を促り、外国人旅行者のニーズに対応する飲食店が増えている。大学との協働では、松村研究室による外国人旅行者の英語やニーズに関するアンケート調査(06年1月)、大阪市立大学都市研究プラザが西成区プラザの開設(06年12月)に協力した。

第2回 関西元気な地域づくり発表会

大阪淀川市民マラソン実行委員会

めざせ1万人！大阪・淀川市民マラソン

活動方針・目的

「ふるさと、夢つくり協議会」が提案する「環淀川市民構想」が原点。大阪の歴史・文化を育んだ母なる川「淀川」を囲む地域住民の連携を深め、世界にアピールする。淀川「淀川」を「淀川」に見直す。
「淀川川沿いマラソン」(淀川沿いマラソン)「環淀川市民マラソン」(環淀川市民マラソン)を、大阪・淀川市民マラソンならではの特色とし、だれでも参加しやすく楽しめるところをモットーとし、「ボランティアのスタッフが毎年工夫を重ねながら運営している。朝開時ラン8時開、ハーフ2時間と長距離短縮。参加料も他より低く抑え、エコマラソンとして、ランナーに排気ガスを吸って走って欲しくない、CO2排出を削減するための思いから、10年前の第1回より電気自動車や天然ガス車などの低公害車(エコカー)を運営車両のすべてに適用しているほか、「ランナーも淀川美化委員」といった呼びかけで人が増えてもゴミが増えないマラソンを目指している。

活動内容

淀川の川沿いを走るマラソンを実現するため、「大阪・淀川市民マラソン実行委員会」を結成し、近畿地方整備局淀川川事務所、財団法人河川環境管理財団大阪事務所との共催で「大阪・淀川市民マラソン」を毎年11月の第1日曜日に開催。第1回は参加ランナー約1,800名でスタート。知名度が高まることにも参加申込が増え続け、10年目の06年11月5日(日)の大会は参加ランナー約6,000名で開催。現在開催されている福山マラソン、福山ABCマラソンに続いて3番目であり、フルマラソン全国約60大会のうち18位に入る規模に成長した。一般による「手づくりマラソン」ながら、雑誌「ランナーズ」の人気投票で全国約1700大会のうち常に100位以内にある。また、排気ガスのないマイランコースとしても注目され、世界に誇れる大会といえる。
一方、ランナーの約47%、一般・企業ボランティアの約85%が淀川流域の市町村から参加しており、スタッフを含め参加者の5割近くが「環淀川市民」であり、全国区の大会に成長するとともに、より地域に密着した存在になっている。

第2回 関西元気な地域づくり発表会

井手町まちづくり協議会

井手町まちづくり協議会の住民主体のまちづくり再生

活動方針・目的

井手町まちづくり協議会は、町内で別々の活動をしていたボランティア団体が連携し、自らの手によって町の活性化をはかることを目的に平成12年5月に発足した。(現在、加入団体は13団体)

活動内容

活動拠点となる「井手町まちづくりセンター構想」の管理運営を行い、来館者のもとでなす特産品の販売、かまど炊き、ガイド、陶芸の体験、野菜市、能力祭等の各種イベントの企画を行っている。

第2回 関西元気な地域づくり発表会

伊吹の源流を考える会

琵琶湖の源流を下流民と共に考える～エコミュージアムとエコツアー～

活動方針・目的

地球は「水の惑星」と言われていますが、人間が飲める真水、淡水は1パーセントといわれています。日本で言えばその宝庫が琵琶湖です。琵琶湖にはたくさん川が注いでいて、川には源流があります。源流を守れば琵琶湖もきれいになります。中でも北近江には、まだまだ豊かな自然が残っています。特に東・北側の伊吹山地区には、貴重な動植物も多く生息しています。この自然に触れ、「源流を愛する人を増やしたい」として、未来永劫に水を安全に琵琶湖に注いでいくことが現代の私たちの大切なことと考えたいと会を結成し活動を行っています。

活動内容

地域の素材を最大限活かした活動を行っています。会のメンバーはイラストや動物写真家や植物の先生、生の生態を調べる大学教授、ペンションのオーナー、フランス料理店シェフ、公務員、地元青年など30名で伊吹山周辺の動植物を肌で感じる「伊吹山エコツアー」や「源流曲谷エコツアー」などを企画し、下流の都市の方々の地域の皆さんと共に源流を知っていただき源流ファンを多くつくっています。また、川の家を改修し源流の会の拠点としながら一般にも1000円の使用料で解説した田舎体験を味わってもらっています。

第2回 関西元気な地域づくり発表会

大阪商工会議所 地域振興部

「大阪ナイトカルチャー」事業

活動方針・目的

大阪には、働く人や市内からの訪問客が、「働く」で「楽しく」、「遊ぶ」で「楽しむ」が「文化」なライフスタイルを過ごすことができる街・大阪を目指すと共に、新たな夜型市場の開拓と拡大を図る。

活動内容

①新たな夜型スタイルの提案・普及
②レイトショーの開催
③主要ホテル・美術館・レイトショーの連携を働きかけ、ホームページ(<http://www.osaka-nightculture.com/>)やメールマガジン(週1回約2,500件配信)、ブログ(<http://yelp.osaka-nightculture.com/>)、「大阪ニュース」(大阪商工会議所発行:月2回45,000部発行)等で広報・集客に協力。これまでに大阪府庁主要ホールでのレイトショー(午後7時半以降開始のコンサート、美術館、ライブ、音楽、映画、ダンス、スポーツ(野球、バスケットボール)など、様々な分野で展開開始)の開催、普及
④レイトショーを推進する企業・団体のイベントの開催・普及
⑤大阪ナイトカルチャー、大阪商工会議所、カルチャーセンター、山本建設、なんばグランド花月、歌舞伎座など、来場者の満足度向上の促進、配布、レイトショーと観光施設の連携を促した。また、レイトショーの開催が期待される施設を募集し、大阪商工会議所、観光協会のパンフレット表示によるコンサート・特別イベントの企画を実施した。
⑥多様な企画・イベントの開催
⑦大阪商工会議所、大阪商工会議所、東京商工会議所を平日夜に特別開催し、美術館と協働でコンサートや映画上映イベントを開催。平日夜ゆたか美術館とコンサートを企画し、法人会に好評を受け、毎日づくりに定着する人気企画となっている。
⑧近隣の観光施設との連携を推進し、観光客の滞在を促す「レイトショー」の開催
観光客や社会人が伝統芸能を気軽に鑑賞できるよう、能、狂言、文楽、漫談など様々な伝統芸能を一堂に鑑賞できるイベントを平日夜に歌舞伎座や山本建設と連携。伝統芸能とジャズや音楽を同時上演することで、伝統芸能に新しい魅力・価値を創出する。
⑨新たな夜型イベントの開催
⑩新たな夜型イベントの開催
⑪大阪ナイトカルチャー・イベント、企業家との懇話会・ライブなど、新たな夜型イベントを積極的に企画・実施している。
⑫大阪ナイトカルチャー・イベントの開催
⑬大阪ナイトカルチャー・イベントの開催
⑭大阪ナイトカルチャー・イベントの開催
⑮大阪ナイトカルチャー・イベントの開催
⑯大阪ナイトカルチャー・イベントの開催
⑰大阪ナイトカルチャー・イベントの開催
⑱大阪ナイトカルチャー・イベントの開催
⑲大阪ナイトカルチャー・イベントの開催
⑳大阪ナイトカルチャー・イベントの開催
㉑大阪ナイトカルチャー・イベントの開催
㉒大阪ナイトカルチャー・イベントの開催
㉓大阪ナイトカルチャー・イベントの開催
㉔大阪ナイトカルチャー・イベントの開催
㉕大阪ナイトカルチャー・イベントの開催
㉖大阪ナイトカルチャー・イベントの開催
㉗大阪ナイトカルチャー・イベントの開催
㉘大阪ナイトカルチャー・イベントの開催
㉙大阪ナイトカルチャー・イベントの開催
㉚大阪ナイトカルチャー・イベントの開催
㉛大阪ナイトカルチャー・イベントの開催
㉜大阪ナイトカルチャー・イベントの開催
㉝大阪ナイトカルチャー・イベントの開催
㉞大阪ナイトカルチャー・イベントの開催
㉟大阪ナイトカルチャー・イベントの開催
㊱大阪ナイトカルチャー・イベントの開催
㊲大阪ナイトカルチャー・イベントの開催
㊳大阪ナイトカルチャー・イベントの開催
㊴大阪ナイトカルチャー・イベントの開催
㊵大阪ナイトカルチャー・イベントの開催
㊶大阪ナイトカルチャー・イベントの開催
㊷大阪ナイトカルチャー・イベントの開催
㊸大阪ナイトカルチャー・イベントの開催
㊹大阪ナイトカルチャー・イベントの開催
㊺大阪ナイトカルチャー・イベントの開催

第2回 関西元気な地域づくり発表会

NPO法人釣り文化協会

「茅渚の海ふたたび」市民による環境モニタリングシステムの構築について

活動方針・目的

釣り人が中心となって大阪湾の環境をモニタリング(監視)し、釣り人の視点での大阪湾の釣り環境の現状や変化を分析・評価して、市民に生じた情報として発信する。
この取り組みによって、釣り人のマナーの向上と環境意識の高揚を図り、釣り人一人ひとりが大阪湾再生に取り組みと共に、市民や関係機関との協働の裾野を広げ、「市民による環境モニタリングシステム」としてネットワークの構築をめざす。
多くの市民参加により、市民の目録で大阪湾の現状(いま)を知り、「茅渚の海」として再生を図る取り組みや「100年後、1000年後も茅渚の海であり続けるための取り組み」につなげていくため、「まず、できることからはじめていこう」をモットーに取り組みしている。(平成18年度全国都市再生モデル調査に選定)

活動内容

多くの市民が参加したモニタリング調査の実施
モニタリングシステム構築検討会の開催
新鮮な情報を発信する体制の整備
新井ボウムの開催

第2回 関西元気な地域づくり発表会

けやき通りまちづくりの会 歴史遺産活用委員会

堺市けやき通り界隈における、けやき並木と周辺の歴史遺産を活かしたまちづくり

活動方針・目的

堺市けやき通り及びけやき通り界隈における、けやき並木と周辺の歴史遺産を活かし、明るく豊かなまちづくりを目的とする。

活動内容

- 歴史遺産の学習と活用
地域には12以上の歴史遺産があり、これらについての勉強会を年2〜3回開催している。これらの遺産を巡るウォークラリーを会員が解説しながら実施し、歴史遺産に対する造詣を深めている。
また、登録有形文化財である旧三丘会館で講演会を、旧天王野水池でけやき文化の集いや絵画展・造形展の開催を通して、文化遺産の利活用をすすめている。
- 地域文化活動
旧天王野水池において、春秋年2回の一般公開を行う。春は観桜会・お茶会、秋は「けやき文化の集い」を開催し、文化遺産を身近なものに感じてもらいとともに幼稚園児から高齢者まで4世代間の交流を行っている。
地元中学生から歌詞を公募し、「けやき通り」のうたを創った。
店舗の活性化ならびに利用者に特典があるようショップパスポートを発行している。
- 人々にやさしい道づくり活動
定期的なけやき通りの清掃と簡易広告除去活動を通して、美しいまちづくりを目指している。
- けやきの根元の花飾り活動
種まきから育てた花の苗をけやきの根元に植え、地域の根元に植え、地域の方々に水遣りをお願いすることで、力を合わせていっしょにまちづくりを行っている。

第2回 関西元気な地域づくり発表会

舞鶴市建設部土木課

舞鶴市「市民参加のみちづくり～海舞鶴線遊歩道整備～」

活動方針・目的

舞鶴市は、東と西の2つの市街地があり、東は海軍鎮守府開庁から約100年、西は田辺藩統治から400年を経て、独自の文化・風土を築き、近畿北部の中核都市として発展してきました。
「舞鶴市中心市街地活性化基本計画」では東西2つの市街地を一部二彩（一つの舞鶴に二つの彩り）の魅力を創出し、他都市の2倍の魅力を発揮を基本方針としています。
今回の「海舞鶴線遊歩道整備」は、舞鶴西地区の城下町の資産や情緒を継ぎ、活き活きとした町衆の文化を育み、訪れる誰もが安全と安心を感じることでできる空間の創出を町民（市民）の力の結集でつくり上げた道であります。

活動内容

明治37年に開通し、西舞鶴駅と港を結び木材や魚などの輸送に使われていた旧国鉄海舞鶴線の跡地利用として、計画段階から「市民の意見を聞く」など開催し、整備内容を市民参加により決定。毎日利用する地域の住民が「自分たちで計画し、工事にかかり、完了後も管理を行い、育てていく」市民との協働を行い、遊歩道「海舞鶴線」の整備を行いました。また計画発表会や工事見学会も行っており、多くの市民の手で盛大に開通式が行われました。
コンセプトは、「みんなで考え、みんなでつくる、ふれあいロード」。沿線には細川藤孝（簡書）細川ガラシャで有名な田辺城があり、城下町や鉄道の歴史を彷彿とさせる風格のある遊歩道としました。また中学校・小学校・幼稚園・保育所・もうろう学校・図書館・運動広場が隣接しており、市民や子ども達が安心して散歩・通学が出来るよう平坦な排水性舗装、夜間照明、自然豊かな植栽や花壇を整備し、子ども達の大好きな土遊びの場に「ひよこどりようたん島」の砂の築山も作って、広い範囲の回遊ネットワークも確保しました。
整備後は、多くの市民に利用されるだけでなく、沿線の住民や文教施設の皆さんの手により磨きのお世話をさせて頂き、市民の手ですくすくと育てて頂いています。

第2回 関西元気な地域づくり発表会

若狭熊川宿まちづくり特別委員会 関東学院大学昌子研究室 福井県若狭町企画情報課

住民と大学との協働による鯖街道熊川宿活性化モデル調査

活動方針・目的

次期熊川宿まちづくりプランの構築を大学との協働により意見交換しながら創り込んでいき、熊川宿における「まちなか研究所」を提案。

活動内容

熊川宿まちづくり特別委員会の新しいまちづくりプラン策定の中に、関東大学の学生の町歩きアンケートや空き家実態・活用調査等を意見や提案として活用する。
また、「まちなか研究所」を今後の大学生受け入れの場、地域コミュニティ醸成の場として設立を目指していくもの。

第2回 関西元気な地域づくり発表会

十津川村観光課 十津川鼓動の会

「世界遺産ウォーク能動体験のすすめ～「歩くことから得られる普遍的価値」～

活動方針・目的

キーワード「過去のことだけでなく、未来も語る 語り部」
世界が認めた自然遺産、十津川川筋の世界遺産「大峯奥駈道・熊野参詣道小辺路」を中心に世界遺産の語り部として、来訪者に地域に古くから伝わる、自然と人間が寄りあがった普遍的な価値をつなぐ文化・歴史・精神風土など語り伝えるとともに、新たな価値の創造を活動の基本とします。
また、十津川村が目指す「心身再生の郷」への取り組みの一助となるべく「心身再生の道」の語り部として、更に努力し、地域の資源を活かせる民間グループとしても、活力ある活動をすすめます。
今、官民一体の取り組みがすすめる「歩くことから得られる普遍的な価値」を全国に、また世界に発信し、能動態勢をさせていただきます。その取り組みのなかで歩くことから得られる様々な可能性を追求し、この「道」を訪れる人と感動を共有しながら、地域の宝を輝かせる語り部として、活動を展開していきます。

活動内容

- 十津川村の世界遺産
・大峯奥駈道・玉置山散策コース・熊野参詣道小辺路各コース 案内
- 心身再生の郷 体験イベント
・魅惑体験 実用ウォーク・魅惑体験 玉置山ウォーク 案内
- 「なびきツアー」
- その他（各種旅行業者及び個人の要望への対応）

第2回 関西元気な地域づくり発表会

宝塚音楽回廊実行委員会 (財)宝塚市文化振興財団 宝塚市観光振興課

「宝塚音楽回廊」～まちが音楽であふれる一日～

活動方針・目的

文化による「まちの元気」創出のために、「音楽のまち宝塚」のシンボルイベントとして「宝塚音楽回廊」を継続的に開催することにより、活力のあるまちづくりをめざしています。
2004年（平成16年）に、阪神・淡路大震災10周年を機に始まったこのイベントは、震災復興に対して寄せられた数多くの支援に感謝するとともに、共に生きることの素晴らしさを、音楽を媒介として伝えていきたいと願っています。
この取組は、「芸術文化都市・宝塚」のブランドイメージづくりに、大きく寄与するものと考えます。

活動内容

毎年11月半ばごろの一日、宝塚市内各所のホール、ライブハウス、ホテル、飲食店、街角など20箇所を超える会場で一斉に、多様なジャンルのライブ演奏が、同時進行的に展開されるイベントです。
宝塚市内に在住のミュージシャンを中心として、ジャズ、クラシック、シャンソン、ブルーグラスなど、様々なジャンルの音楽でまちが包まれる一日を演出し、市街地の活性化をめざします。
〈開催実績〉
第1回 2004年（平成16年）11月23日
第2回 2005年（平成17年）11月12日
第3回 2006年（平成18年）11月11日

第2回 関西元気な地域づくり発表会

和歌山市民アクティブネットワーク交通まちづくり分科会

貴志川線存続とその活用による地域活性化

活動方針・目的

貴志川線の存続と存続後の貴志川線及び貴志川線沿線地域の活性化

活動内容

平成15年10月南電幹が貴志川線事業廃止の意向を表明、翌年9月には事業廃止届を提出した。貴志川線存続を願う住民は、「貴志川線の未来をつくる会」などを中心に、「貴志川線存続の意義」等を学習し、ワークショップ・シンポジウム・種・チラシなどで沿線住民に訴えかけ、館員数は6, 392名に達した。また、「和歌山市民アクティブネットワーク（WCAN）」が貴志川線並行道路の交通量等を調査して、「貴志川線存続に向けた市民報告～費用効果分析と再生プラン～」を平成17年1月に公表した。これら「貴志川線は地域で責任をもって支える」ことを種々の行動で示したことから、NHK番組にも取り上げられ、貴志川線は存続することとなった。
存続後は、和歌山県貴志川線運営委員会に参加して種々活性化施策の提案、貴志川線への乗客数増加を目的にしたモビリティマネジメントの実地及びイベント・駅及び沿線の美化など全面的な協力を官民一体となって行っている。このような活動で貴志川線を活性化することにより、沿線地域の活性化と道路負荷の低減による視点を変えた「未知世界」に取り組んでいるところである。

第2回 関西元気な地域づくり発表会

茶香みばなしの会

宇陀市松山の思い出ばなしから生まれる交流を、まちづくりへ活かす

活動方針・目的

奈良県宇陀市は奈良盆地の東側に位置する宇陀山にあり、歴史的町並みとして貴重な松山地区は、一級河川宇陀川と古城山との間に展開している。宇陀松山は交通の要衝として、戦国時代から城下町、近世以降は藩政町として栄えた町並みで、江戸時代から昭和初期にかけての建物が数多く残っている。平成18年7月5日、この歴史的町並みの価値が認められ国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されたことである。
町並みが素晴らしいことには誰もが感じて感じることで、その町並みを守り伝えていくには、カタチだけを残しても意味が薄い多くの人が思っていることであろう。よりよい歴史的町並みの維持には、地域住民の知恵と記憶が欠かせないと考え、「戻ってきた思い出からまちづくりのヒントを得よう」と思っていたのである。
茶香みばなしの会がこうした考えに基づいて、宇陀松山での暮らし方を知ることを目的として平成18年2月に活動を始めた会である。ほぼ毎月、その時々で気候や行事に絡んだ思い出を参加者から聞き、まちづくりや家作りのヒントになる情報を集めている。
参加者の多くは地元住民で、これらの人々は来訪者との交流も望んでいる。そのため、歴史的町並みとまちづくりの拠点施設、軒先や和室を利用して来訪者と交流するきっかけづくりを視野にいれて活動をしている。

活動内容

活動日は、地元の祭りがある7月・10月を除いた第3日曜日と決めている。（平成19年は第3土曜日に変更した）まちづくりセンターにて世話人がそのときのお茶やお菓子（大宇陀ならではのもの、または旅人の土産など）を参加者に振る舞い、それをつまみながら談笑することが基本である。講師、世話人の発表による松山や宇陀の歴史や文化、体験茶のメニューを参照することもある。
あるとき、地元住民が写真を持って参加された。松山町役場の道路舗装工事業工費の写実、お産数多いの椅子等があり、昭和初期の松山地区をリアルに描くことができた。また、人づいて思い出を語りだされた地元住民は、歳末の風景を思い出して「気持ちよくおしゃべりかき、松山が大好きだ」と語りだしたと喜んで聞いてくれた。
参加者は聴き手だけでなく、まれにHPを見て参加する方が、飛び入り参加は更に増えた。近頃は「宇陀松山が好き」「是非この地に住みたいがどうすればよいか」という相談を受けるようになった。

第2回 関西元気な地域づくり発表会

阪南大学国際観光学科松村研究室

大阪国際ゲストハウス地域を創出する重要性と可能性を探るなかで

活動の方針・目的

松村研究室は、教員とゼミ生が一体となり現地に参入して、現場で考え現場から学び、そこで活動する団体・当事者たちと関わるなかで、現場と互に成長することを目指す。また、人づいて思い出を語りだされた地元住民は、歳末の風景を思い出して「気持ちよくおしゃべりかき、松山が大好きだ」と語りだしたと喜んで聞いてくれた。
参加者は聴き手だけでなく、まれにHPを見て参加する方が、飛び入り参加は更に増えた。近頃は「宇陀松山が好き」「是非この地に住みたいがどうすればよいか」という相談を受けるようになった。

活動の内容

04年度は、OIGのパンフレットやHPの掲載情報や宣伝方法などで提案を行い、多言語化を受け持った。大阪市内の主な観光施設・鉄道ターミナル駅などの多言語化状況に関する調査も行った。大阪の国際観光をめぐる多言語化が余り進んでいない事実を明らかにした。05年度は、Visit Osaka Campaign (VOC) の実現可能性とあいりん地区国際観光の重要性を提議する目的で、大阪市内に立地する800軒の宿泊施設の意向調査に取り組んだ。ラブホテル（250軒）や立地の悪いホテル・旅館（30軒）は、外国人旅行者には不向きであり、外国人旅行者を受け入れる条件を現実的に備えているのは、立地が良く部屋数が多い150軒以上の宿泊施設であるという現状が明らかになった。宿泊施設の地理的な集約の意向と宿泊施設の分析からは、観光施設建設（1室800円から2, 500円）が採りやすい地域に100軒程度集約する意向がある。外国人旅行者の意向を踏まえ、従来の外国人旅行者と全く異なる外国人旅行者の意向を踏まえて、VOCの成功に向けて簡便な利用の利便性が欠かせないと指摘された。また、あいりん地区での合宿調査でインスタンツング派選や紀州鉄道案内などで交流を深めている。
06年度は、外国人の個人自由旅行者の思考を意識しつつ、毎月最終土曜日に大阪市内各所のまち歩きコースを調査してきた。同年夏には、OIG加盟協会の外国人旅行者を対象とした「大阪下町ツアー」を実験的に実施して好評を得た。大阪のローカルな日常やさまざまな非日常を楽しく味わうという趣向のこのツアーの模様は、NHKのニュース番組でも紹介された。06年度からは、OIGの協力を得て、OIG加盟協会の外国人旅行者を対象とする「大阪下町ツアー」を開催し、まち歩きとまちづくりの両面から、まちづくりの重要性を訴えている。①個人自由旅行者の意向を踏まえ、従来の外国人旅行者と全く異なる外国人旅行者の意向を踏まえて、VOCの成功に向けて簡便な利用の利便性が欠かせないと指摘された。②個人自由旅行者の意向を踏まえ、従来の外国人旅行者と全く異なる外国人旅行者の意向を踏まえて、VOCの成功に向けて簡便な利用の利便性が欠かせないと指摘された。③個人自由旅行者の意向を踏まえ、従来の外国人旅行者と全く異なる外国人旅行者の意向を踏まえて、VOCの成功に向けて簡便な利用の利便性が欠かせないと指摘された。④個人自由旅行者の意向を踏まえ、従来の外国人旅行者と全く異なる外国人旅行者の意向を踏まえて、VOCの成功に向けて簡便な利用の利便性が欠かせないと指摘された。

第4回 関西元気な地域づくり発表会

関西大学TAFS佐治スタジオ

丹波市青垣町佐治における空き家の改修を通じた地域の再生

活動方針・目的

本活動では丹波市青垣町佐治を舞台に地域内に多く存在する空き家を学生と住民が交流しながら改修し、再活用を行う「空き家リノベーション」を通じて、「開くほけるという定住のカタチ」[2]世紀の故郷づくりをテーマに、関西大学と丹波市が連携協定を結び、地域住民、専門家と交流し、協働しながら地域の再生に取り組んでいる。

本活動の目的は、空き家の改修によって、学生や住民同士で交流し活動できる拠点施設を長期滞在できるゲストハウス、まちに地域の再生に必要な「居場所」を作ることであり、改修過程の地域への公開、木材といった地域資源の利用、再評価、改修した空き家を利用したローカルコミュニティビジネスの創出といった地域環境のデザインを通じて地域再生を行うことである。

活動内容

宿場町面影残る街道に面する築80年の空き家を借りて、1階を学生と住民が交流し、活動する拠点となる「佐治スタジオ」として、2回を学生が継続的に長期間まちに滞在し地域を体感できるように容易に宿泊できる「ゲストハウス」として整備した。改修後は「まちの居場所」として、学生や子供たち、大人たちの集う場となっている。現在、2軒目の改修に取り掛かっており、地域と協働し、ローカルコミュニティビジネスの拠点として整備していく予定である。

第4回 関西元気な地域づくり発表会

近木川流域自然大研究会

近木川再発見からまちづくり

活動方針・目的

＜地域の目線＞で考え、地域の動きで活動＞

街には、自然の恵みに感謝をし、畏敬の念をいだき、長い年月をかけて人と自然とのいい関係を築いてきた。しかし、個人主義、豊かさを物質的に求めるといった関係がくずれてきた。そこで、それ（人と自然とのいい関係）を見つめなおし、再構築することを目的として活動する。

活動内容

＜「人と自然とのいい関係」再構築 子どもの案による川の分校づくり＞

近木川の水質が、2級河川で二度（5・9年度）も全国ワーストダウンした。平成7年度、近木川探検隊を結成し活動を開始した。活動は、清浄と遊ばせながら、活動を継続した。ハクセンツグマキの発見、8年度から総合学習の取り組みが盛んになり、子どもの豊かな感性での表現と行動には、大人はかなわない。昨年5月に実施した「子どもと大人の井戸端会議」でも子どもは、将来の水辺について「人間的に一方的じゃない。」「人も、生き物も、川も、海も、お互い好きでいられる川。」「といい、そのために何をすればいいかについて「川のことを良く知る。」「活動の輪を広げる。」「ゴミを捨てない。」「生活排水をきれいにする。』などの意見が出た。

子どもと大人の井戸端会議（平成17年から継続） 近木川フォーラム（平成7年から継続） 出前教室（平成8年から） 環境学習のサポート（平成8年から） などとして「道べる近木川」にしていく。近木川市民フォーラムで提案があり、これを受けて、近木川流域自然大、海・山・川の分校とし、市の産業振興部位置づけ、海の分校は、貝塚市立自然学習館、山の分校は、ほの字の里と既設の対比、川の分校を「子供の参画」で進め、ロジャー・ハート、ロビン・ムーア両先生からご指導いただき、まちづくりへつなげている。

地域特性→自然環境、歴史の遺産 祖先が築いた生活文化などを調べ「地域の誇り」となる情報を提供している。これ等の活動から、近木川大好き、貝塚大好きと郷土愛が育ち、ふるさと志向が高まれば、「人と自然とのいい関係」を取り戻せる活動につながる。「暮らしの問題（生活排水など）は、暮らしで解決を」 結果BOD21mg/l（平成9年度）から6.7（平成19年度）に

第4回 関西元気な地域づくり発表会

奈良県（なら・まちづくりコンシェルジュ）

コンシェルジュとまちづくり組織との協働によるマップづくり

活動方針・目的

歴史的可なり地区において、①まちづくり組織による活動の推進、②歴史的地域資源の再発見、来訪者増加などを目的として、なら・まちづくりコンシェルジュがまちづくり組織と協働して地域資源を収集・発掘し、歩きまわ地図「まちづくりマップ」（以下：マップ）の作成を行った。

※なら・まちづくりコンシェルジュ
・平成19年7月14日、20年7月14日に8名（泉土部所属職員）を任命（兼職）
・活動内容：まちづくりに関する「情報収集・提供」「相談窓口」「なかつち」等

活動内容

○竹ノ内街道～檜大橋～伊勢街道とつながる3つの地区において、地元まちづくり組織と協働してマップ作成活動を実施（平成21年3月末マップ完成予定）
・竹ノ内街道：「葛城市竹ノ内街道地区（竹ノ内街道保存会）」
・檜大橋：「大和葛城市本町・市町地区（町まちづくり協議会）」
・伊勢街道：「桜井市初瀬地区（NPO法人瀬川町町民会）」
○地区を歩いて気付きたい点をお互いに話し合い、マップに情報する地域資源を抽出し、地元ならではの眺望スポット、散策ポイント、番号なども掲載。現在の景観が近世以前は川であったことなどの街道の歴史もあわせて掲載。
○マップ（案）に対するワークショップでのアンケート調査や、ワークショップを通じて地区のキャッチフレーズの決定なども実施。

第4回 関西元気な地域づくり発表会

獅子ヶ池を美しくする会

獅子ヶ池里山整備活動

活動方針・目的

神戸市田原の最北に位置する獅子ヶ池は、以前は緑溢れる地域住民の憩いの場であり、地域の子供達やキャンプ等を楽しむ場でもあった。しかし、近年は訪れる人も無く、産業廃棄物の不法投棄の場と化し、周辺山林も樹木が倒壊しげな荒れ地となっていた。平成15年12月、その事に憂慮した地域の皆さんが立ち上がり、地元住民組織で構成される丸山地区住民自治協議会が中心となって、行政との協働のもとクリーン作戦を展開。そのゴミを一掃することに成功した。

しかし、不法投棄された産業廃棄物の量は膨大で、一回のクリーン作戦では片付かず、翌平成16年から一年半の間に4回にわたり地元住民に加え神戸市立置寄ヶ丘小学校の生徒達の協力を得、大規模クリーン作戦を実施した。

先の大規模クリーン作戦でゴミ問題が解決したが、周辺山林については手つかずで、安全・安心の面から里山整備を行い、小中学生から老人まで地域住民全てを巻き込んだ里山整備を行うという意見が地域住民から出たため、丸山地区住民自治協議会を母体とした「獅子ヶ池を美しくする会」（以下「会」と称す）を設立。この獅子ヶ池とその周辺山林を地域住民の皆さんの憩いの場として整備することを「会」の活動方針と定め、地域住民の多くの方々の手による「獅子ヶ池 里山整備・保全事業」を行い、地域住民に安全で安心して利用できる憩いの場を創るとともに、世代を超えた地域力の向上を図ることを目的としている。

活動内容

①月第1木曜日に「会」の幹部による保全・整備活動の事前打合せと、毎月第2日曜日に定期的に実施している保全・整備活動を年間通じて行っている。
具体的には
②獅子ヶ池の里山保全・整備活動による山林及び自然環境の育成・向上
③クリーン作戦を定期的に実施することによる環境保護
④獅子ヶ池の里山保全・整備活動を通しての地域住民における地域力の向上と連携強化
⑤地元小学校との協働活動による獅子ヶ池とその周辺山林における環境学習と異世代間交流の促進
⑥行政との協働連携による「会」の活動のさらなる活性化

第4回 関西元気な地域づくり発表会

山添むらづくり協議会

山添村の地域資源を活かした観光による内発的むらづくり

活動方針・目的

奈良県山添村は、鉄道が無く、コンビニが無い、信号が一つだけという「無い無いづくしの村」である。この村の中で地域資源を掘り起こし、グリーン・ツーリズムなど地域資源を活かした観光による内発的むらづくりをすすめる。

活動内容

①地域ウォッシングや観光ボランティアの研修会などをとおして、地域資源の掘り起こしをすすめるとともに、それを地域マップとして仕上げる。
②観光ボランティアの会を立ち上げるとともに、観光ボランティアガイドの養成にとりくむ。
③奈良県がすすめる「宿泊観光を促す地域の魅力づくり事業」に応募し補助金を受け、農村民泊の推進、体験・学習型イベントの開催、村の語り部・インタープリターの養成などにとりくむ。
④奈良県立大学のゼミと協力して地域住民のグリーン・ツーリズムに対する意向調査やモニターツアーを実施する。
⑤以上のとりくみをおして、山添村で農家民宿や農村民泊をする観光客が増えつつある。

第4回 関西元気な地域づくり発表会

鴨川を美しくする会

鴨川を美しくする会

活動内容

ハイク（定例）年間5～6回
・鴨川合同クリーンハイク（毎年1,000～1,500名参加）
・流域団体員との連携活動（年10回以上）
【啓発活動：環境保全、美化啓発広報等】
・鴨川結涼（鴨川右岸川原敷・三条～四条間）/毎年8月開催（第1回開催昭和44年8月）
・鴨川茶店（府立植物園西側鴨川河川敷「なからぎの道」）/毎年4月開催（第1回開催昭和48年4月）
・鴨川野鳥観察会
・「子どもたちによる」鴨川の水質、水生昆虫の調査
・行政が実施する環境関係事業に参加協力
・小・中学生の川川環境学習について講演等協力
・地域団体等との川川環境学習について講演等協力
・他府県からの川川環境学習と研修の受け入れ
・鴨川の環境保全川川バトロールを定期的に実施

第4回 関西元気な地域づくり発表会

チーム御前浜・香榎園浜里浜づくり

御前浜・香榎園浜まもり・ついかい・そだてる「里浜づくり」活動

活動方針・目的

御前浜・香榎園浜プロジェクトとは、阪神間に残る貴重な自然海岸である御前浜・香榎園浜をより良い形で次世代に繋いでいこうと、地域住民・利用者・行政が協働で2005年度から取り組んでいる活動。
2009年度からは、より地域が主体となり「チーム御前浜・香榎園浜 里浜づくり」として、これまでの活動の継続と発展をめざす。
浜を「まもり」「ついかい」「そだてる」活動を通して人々、人と海が自然にたつたがりの創造をめざし、御前浜・香榎園浜をけがらえない地域「里浜」として、よりよいかたちで未来に継承することを目的とする。

活動内容

(1) 浜をまもる
・定期的な清掃活動を地域団体と協働で行うなど、ゴミのない環境をまもる活動。
・海水散布での除草実験や別川河口に水路を作る実験を行い、自然の循環を大切にした砂浜再生をめざす。
・サイン計画や見守り活動などで、浜の環境保全・再生を図るための情報共有・調査活動を行う。
(2) 浜をつかう
・遊びを通して学ぶ環境体験学習を地域の小学校へ実施。
・浜への理解・関心を高めるイベントの開催や、総合図書館・コンサートなど新たな浜の使い方・楽しみ方の創造。
・開かれたみんなの浜・地域の浜として安全・快適に使うルール・マナーづくり、防災の推進など。
(3) 浜をそだてる
・情報誌「ツタエホウダイ」による、情報発信を通じた浜への関心・愛着・ネットワークを築いていく活動。
・浜へのストレッチやビーチバレーなど、五感をとりもどし、人と自然のつながりを共生を社会の中に育てる活動。
・海・川への親水性を高める環境づくりをめざす研究・提言や、行政との協働活動など。

第4回 関西元気な地域づくり発表会

つるがまちづくり萩の会

九年目、心なごむ花と緑と水辺のまちづくり

活動方針・目的

2000年7月26日、「ボランティア精神」を基本に、「専身大」「継続」を心して住み暮り地域づくりを目指すことを目的に設立し、ふるさと散策の花「萩」を主に、心も花と緑と水辺のまちづくりを展開してまいりました。

活動内容

◇ 萩の地味付け場所
井の川（四石橋一筋見橋）の両岸約1.8kmと柳川公園とポケットパークを拠点としています。
因みに、井の川は、数百年の歴史を下し数回濁りに濁り、右岸に名勝「狐の松原」があります。
◇ 萩散策について
萩市 萩500円のオリジナル紙を採用し、2001年より散策を実施し、目標年を平成17年と定めた企画を一応達成してまいりました。その他、駅前や公共施設の花壇の花植え、萩の出版情報、他団体や行政、企業との共催による各種散策を継続しています。
◇ 散策後の井ノ川（四石橋一筋見橋）周辺に、人に来ていただく仕掛け
万葉集の歌をまんじゅう14首を選び、萩の庵に立てかけたり、9月に芋煮会、月見を企画し、萩に田んぼ散策、俳句、写真等を募集し、その作品の展示会は5回目を数えます。2004年より、萩を植樹した公園と連携を中心とした「萩のオーケストラ」を開催、この催しも5回目を指します。
◇ 活動資金
会費、フリーマーケット、商品回収、寄付金で賄っています。中でも、フリーマーケットに負うところが一番で、会員づくりのマイブーム、萩もの、お土産、花器、着せ替え等を販売しています。
◇ 維持管理について
2002年度から、種々の除草、整備、樹木、剪定、刈り取り等を行っています。除草には、地区民も加わり大規模に実施しています。
12月から4月まで定期的に刈り込まれた萩は株のままですが、5月、6月と若葉はいい形になって日増しに濃くなってゆきます。早いものは6月の中旬から花をつけ、8月9月を盛りだす10月中旬ごろまで楽しめます。心も花と水辺の空間を創出し、多くの人に親しまれてまいりました。
◇ 今年10年という節目を迎えて
しっかりと維持管理を続けます。30年50年先を見据えたまちづくりをします。当初からの願いでもあるあるなる木の樹を継ぎました。

第5回 関西元気な地域づくり発表会

阪南大学松村研究室

新今宮観光インフォメーションセンターの運営とまちづくりに向けた社会的実践

活動方針・目的

阪南大学国際観光学部（2010年4月より）松村研究室は、教員とゼミ生が一体となって現場と関わり、現場で実践するなか現場から学び、現場と共に育つ「現場共創」という方針のもと、大田市の新今宮緑地（おいらん緑地・新世帯もみぢ）において、まちづくりに向けた社会的実践を推進している。我々の活動の目的は、大阪府府庁所属生活生産局東区（以下、東区）・大阪府観光局（以下、府観光局）・大阪府観光局（以下、府観光局）・ホテル中央グループ・地元商店街などと協働して、新今宮地域を外国人個人旅行者（以下、FIT）が気軽に楽しめる大阪国際ゲスハウス地域へと変換させることにある。我々の活動はかつてこの場で紹介させていただいたが、今回はその後の展開について報告したい。

活動内容

新今宮地域におけるFITの誘致は積極に進み、近年の外国人旅行者数は年間のべ8万人近くにもなる。ゲンジ湖、まちづくりでめざられているのは、（1）FITに様々な情報やサービスを提供して、関西観光の宿泊拠点化を促進すること、（2）FITと地域社会とを確実かつ適切につなげ、FITの満足度を高める滞在の長期化を促し、地域経済の底上げが地域再生を促すとともに、地域全体でFITをもてなす機運を高めることである。
以上の認識のもと、我々がOIGホテル中央グループ（以下、OIG）と協働して「国際観光学部」の学生と協働して「新今宮観光インフォメーションセンター（以下、新今宮TIC）」の常設運営を始めた。基本的には土日のみ、8・9月など大学の長期休暇中は毎日9時から16時まで運営している。新今宮TICの場所はホテル中央グループから徒歩5分程度で、光熱費の運賃コストは関係なく、OIGホテル中央グループなどから支援していただき、実際の運営は全て我々を中心とする学生ボランティアが行っている。国際観光学部学生ボランティアとして、新今宮TICはその最前線で実践的に学ぶ場であり、講義では学べない貴重な経験を積んでいる。新今宮TICの存在は、利用するFITからは喜ばれ、地域のゲストハウスや高層ビルも喜ばれ、ボランティア学生も充実感が得られるものであり、産学連携の理想的な事例と見られる。

新今宮TICの活動は、（1）主にFITに対する観光情報の提供と旅の相談、（2）FIT向けの現地型ツアーの企画と実施、（3）国際観光に関する調査研究活動とまちづくりに関する社会的実践、の3つに大きく分けられる。2009年度は、1・350名、2・347名の利用があり、759名の学生ボランティアが参加した。2010年6月実施した新今宮TICの現地型ツアー「Let's walk around OSAKA!」では、OIGホテル中央グループの協力を得て、2010年6月12日の案内で、大阪の「あられの日」と「さやかな平日」を案内した。FIT向けの街歩きは2010年6月6日実施する予定である。新今宮TICは単に旅行者に情報提供するだけの場所ではない。2009年度には、ここを活動拠点として、FITの活動に関するアンケート調査やゲストハウス経営者への聞き取り調査を行い、2010年春からは、「新今宮地域情報サイト」を立ち上げる活動が本格的に始まった。

第5回 関西元気な地域づくり発表会

NPO法人自然回復を試みる会・ビोटープ孟子

孟子不動谷の里山自然を活かした地域活性化の取り組み

活動方針・目的

私たち（特）自然回復を試みる会・ビोटープ孟子は、1998年2月、海南孟子荒糸（通称：不動谷）の一角に水辺ビोटープを掘削し、そこに集まる水生昆虫を地元の小学生とともに観察することから始めた里山保全を目的とするNPO法人です。2002年2月、NPO法人として登記し、孟子不動谷の豊かな里山自然を活かした地域活性化を活動方針として事業展開をしています。

活動内容

- 孟子不動谷の里山保全活動
 - 動物相モニタリング調査
 - 無農薬稲作・畑作
 - 炊飯会
 - 環境学習の拠点としての活動
 - 人材登録（和歌山県環境教育アドバイザー）
- モニタリング、実務
 - 研究「北野上・山東地誌」編集（和歌山県海草振興局）
 - 高齢者の生きがいづくり
 - 日本ユネスコ未来遺産登録
 - 「孟子不動谷生物多様性活性化プロジェクト」が採択（平成21年12月）

他の活動団体の参考となる事例

- （1）間伐材を活用したトンボ池（水辺ビोटープ）の補強国土緑化推進機構助成金
- （2）紀の国森づくり基金の積極的活用 里山自然観察会&大旗山道改善
- （3）指定管理者制度の活用 海南市わんぱく公園

第5回 関西元気な地域づくり発表会

大江まちづくり協議会

大阪市天王寺区大江地区の四天王寺を活かしたまちづくり

活動方針・目的

日本最古の仏教寺院である四天王寺を核として、他の組織・団体を協働しながら小学校区である大江地区の活性化と安全可能な「まちづくり」を推進する。

活動内容

- （1）大江まちづくり協議会の活動
 - イ、四天王寺大回り・元旦の除夜の鐘・開運・招福の鐘行事に合わせ参道と境内を灯籠で飾り、賑わいを彩る
 - ロ、7月の七夕前後の土日を中心に四天王寺に於いて「七夕のゆづり」を举行（内容）笹トンネル、七夕参道飾り、七夕コンサート、七夕縁日、七夕星空上映会 天王寺七坂巡り
 - ハ、大正ふれあい市の開催
 - ニ、四天王寺に因った新築・修繕の開発と販売の推進
 - ホ、タウン誌「わかまち大江」の定期発行、協議会のホームページ立ち上げ。
- （2）地域の他の団体との協働
 - イ、放置自転車の整理と市による駐輪場の設置
 - ロ、大江体育施設開放事業運営委員会の協働
 - ・9月の大江ふれあい祭り
 - ・暮れのおつき大会
 - ・四天王寺に於ける大江小学校児童の学級会
 - ハ、地域の個人会との月一度のふれあいまじり祭典と出前講演などの開催
 - ニ、大阪市街並み集計事業の窓口、門前町の活性化推進

第5回 関西元気な地域づくり発表会

近畿総合メンテナンス株式会社

田尻町の田尻歴史観を活かしたまちづくり

活動方針・目的

長い間に培って来た建物メンテナンスのノウハウを生かし、古き良きものを利活用しながら後世に残してゆくという目的をもって活動しています。

活動内容

- ・1階ホール・食堂をカフェレストランとしてオープンし、室内楽やオカリナの演奏会等を開催しています。
- ・洋館の2階は、絵画や陶芸・写真等のギャラリーとして、また和館では吟行会や会議等に、茶室はお茶会などを活用して頂いています。
- ・そうして建物のメンテナンスをし、この建物を建てられた谷口氏の「生きざかり」を見学に来られたお客様に聞いて頂いています。（案内はボランティアさんが行っています）
- ・レストランでは、田尻町ならではの食材にこだわり、地元で採れた野菜を中心に魚介類も地元田尻漁港等から仕入れた新鮮なものばかりです。
- ・案内所は、英語版・中国版・台湾版も作成、関西空港や田尻町にありま国際交流センターのお客様を広く迎えています。

第5回 関西元気な地域づくり発表会

NPO法人日本ウミガメ協議会

神戸空港西緑地人工池でのウミガメエコリズム

活動方針・目的

日本ウミガメ協議会の活動は、ウミガメの調査・研究の他に、調査や研究でわかったことやウミガメに関する正しい知識を社会へ広げたいことに力を入れています。
2007年より「ウミガメエコリズム」というイベントを神戸市で開催しています。神戸空港西緑地人工池で夏場、保護しているアカウミガメとふれあひながら、ウミガメの現状などの講演会をおこない、少しでも多くの市民にウミガメに興味と正しい知識を知ってもらいたいと思っています。このイベントをおこないウミガメへの興味をもってもらい、イベント以外の時もウミガメを観察に来てもらうことで、神戸空港西緑地人工池が市民にとってにぎわいの空間になってほしいと思います。

活動内容

夏場、大阪湾内にも多くのアカウミガメが産卵場所や餌を求めて回遊してくるが、船の航行、漁業が盛んにおこなわれている大阪湾では、回遊して来たウミガメが船との衝突や漁網にかかり、傷つき命を落とすことも少なくありません。そこで、大阪湾内で発見、保護したウミガメを神戸空港西緑地人工池に移し保護する活動を2007年より開始しました。

月に1回、ウミガメエコリズムを開催しました。ウミガメエコリズムでは、当会研究者によるウミガメの講演会、ウミガメの健康診断（体長や体重の測定）、甲らのコケ剥離などを行い参加者がウミガメを間近で観察できふれあひえるようなイベントの内容にしました。また、夏休み中、土日休日は神戸西緑地人工池を市民に開放しつつもウミガメを見に来てもらえるようにしました。必要に応じて監視スタッフがウミガメの解説をおこないました。

第5回 関西元気な地域づくり発表会

平成OSAKA天の川伝説実行委員会

水の都を活かし人々の心根をやさしくする地域活性化

活動方針・目的

<川からのにぎわいづくり・元気づくり>

- （1）水都大阪の川そのものを活用して新たな夏の観光資源とすることをめざす。
- （2）実施時期は、天神祭の始まりとされる「星誕七夕まつり」と期を一にした七夕とし、広く人々の心と希望の光を灯すことをめざす。
- （3）ふだん見ることのない川面を見つめる機会を提供することによって、水資源、水環境に対する感謝の気持ちを醸成することをめざす。

活動内容

一般市民に、LEDを光源とする直径約10cmの光る玉「いのり星」の放流権をご購入いただき、七夕の夜に大川に放流した川を出現させる。
【実績】2009年第0回 2万個を放流
2010年第1回 5万個を放流予定 ※人々に定着させ、毎年実施する予定

第5回 関西元気な地域づくり発表会

宇陀松山華小路実行委員会

ダリアの華で地域を元気に！宇陀松山華小路2009

活動方針・目的

奈良県東部の山間部にある国の重要伝統的建造物群保存地区、宇陀市松山。「宇陀のまっちゃま」と呼ばれて親しまれている城下町から商家町へと発展した歴史的町並みである。

制度により景観の維持は図られていくが、暮らしの質としての魅力づくりは地域の人間に委ねられる。そこで地元の人に宇陀松山の景色を愛し、生き甲斐を持って暮らして欲しいと思い平成16年から「茶香みばなしの会」を立ち上げ、思い出話しを拾い集める活動を展開した。しかし、壁にぶつかった。

そこでこの活動を次の段階へと進め、より能動的な姿勢で地域の魅力を発掘し、地域への愛着を育て、まちづくりの担い手を広げる取り組みを始めた。それが「宇陀松山華小路」である。
美しいものに触れる体験が、「まちを愛する心」や「景観に調和する建物をつくる努力」につながることを狙いとした。

活動内容

奈良県はダリアの球根産出量が日本一で、その主力を担うのが、山添村と宇陀市榛原区だに知った。これはもって発掘していかねければ、と思ひ、生産過程で廃棄される花を買い取り、歴史の町並みと路地を飾るイベントを開催。市内外の地域づくり団体や職人の協力を得て、秋を彩る独特の行事に昇華させた。
春に実行委員会を組織し、夏にデザイン協議、秋は花摘みリハーサルと本番、という流れで作業を行った。

第5回 関西元気な地域づくり発表会

串本・みんなの海をまもろう会

串本の海をまもる、地元「民・官」の協力した取り組み

活動方針・目的

串本の海を愛する人々が一体なり、海をキレイにする活動を通して、日本一すてきな串本の海を守りつづけることを目的とする。（以前まで海岸清掃の取り組みは町内各で行われていたが、より協力をできる体制をつくらうということで設立。平成25年5月に設立された民・官協力による任意団体）

活動内容（H21年度）

- （1）海岸清掃・・・地域住民、地域団体、行政で協力で清掃活動を行っている。（2回実施）
- （2）海ごみ勉強会・・・海のごみ問題に詳しい人物を招き、海のごみの発生原因や、現状、今後の取り組みの可能性などについて学んでいる。（2回実施）
- （3）環境保全啓発を目的としたイベントの開催・・・海のごみをアートに活用するコンテスト、清掃後の海でサーフィンスクールなどの開催。

第5回 関西元気な地域づくり発表会

飛鳥川じゃこ取りネットワーク

地域を流れる飛鳥川の自然を通じた地域コミュニティ作り

活動方針・目的

飛鳥川は多くの生き物が生息し、豊かな自然が残されている川である。しかし近年、飛鳥川に生息する生き物は数を減らしている。また、川で遊ぶ子どもの姿もかつて飛鳥川のように見られなくなった。昔はたくさん生息していたメダカなどの小さな生き物も近年は大きく数を減らしている。このように生き物の減少や子どもの川離れが進むにつれ住民全体の川への意識も薄れ、ゴミが捨てられているような光景も見られるようになってしまった。そこで活動目的・設立の趣意として以下の3点が挙げられる。

- 流域住民に飛鳥川を誇らしさを知ってもらい、流域住民の手で守り、育てること。
- 最近では減ってしまった「川ガキ」（川で遊び、川に親しむ子）を増やすこと。
- 飛鳥川の豊かな自然を維持すること。

活動内容

上記の目的・設立趣意を達成するために、河川清掃活動・水生生物観察会・飛鳥川自然保全活動（魚類相調査・野鳥調査）を中心とし、活動を展開する。まず、魚類相調査・野鳥調査などで川の生態系を把握した上で、飛鳥川の保全活動を進める。その結果をもとに、地域住民や子どもたちに飛鳥川のことを知ってもらい、飛鳥川に愛着をもってもらうために水生生物の観察会を実施する。また、日ごろから飛鳥川への関心を持ってもらうために、定期的な河川清掃活動を実施する。また、来年度から絶滅危惧種のカワバタモロコの保全活動・飛鳥川について学ぶプログラムを流域の子供向けに展開する予定である。

第5回 関西元気な地域づくり発表会

兵庫県稲美町経営政策部企画課／稲美野荘園自治会

「稲荘農場まちづくりの会」と「ダンボールコンポストによるごみ減量」の取り組み

活動方針・目的

「ゆゆうライフへの挑戦」第3篇として、自治会内の高齢化率の上昇（毎年3%）および二世帯や独居世帯の増加が急激に進む中、地域住民の連帯意識と交流の場作りを目的に共同農場を立ち上げ「健康づくり」と「仲間づくり」を育む活動を開始した。

活動内容

「稲荘農場まちづくりの会」を発足し、3事業に取り組んだ。

- 健康づくり事業
 - 集団農作業による野菜作りによる健康づくり・連帯感づくり
- エコ事業
 - タンポールコンポストによるごみ減量運動の展開による住民意識の高揚づくり
- 世代間交流事業
 - 商が構成の体験学習による三世代交流の地域創出づくり

第5回 関西元気な地域づくり発表会

日野川に砂れき河原をとりもどす会

日野川に砂れき河原をとりもどす活動

活動方針・目的

昔ながらの砂れきの河原を復元し、地域住民が川に接する機会を増やし、川を見ながら、自然から受ける癒やしや学びの心を感ずる、また、釣りや自然観察や集いの場所として川を活用した地域づくりを目指すことを目的としている。

活動内容

始めの取り組みは、日野川の現状を地域に発信する機会を設けました。水辺での動植物分布の調査、川の周辺にある歴史的遺産や観光施設の研究・水遊びや川に学ぶ体験活動の実践、川の安全講座、日野川漁協のユウ成施設の見学、Eポート体験・用水の見学など。これらの活動をスタッフや行政、河川管理者、漁協・用水の管理者など関係者が実体験し、ホームページや新聞報道等も活動しながら周知しました。次に地域住民全員を対象にした活動を行いました。これが、今回の砂れき河原をとりもどす活動の第一回目です。川に関わる専門家知識と経験を活かして、これまでふるさとの川に接することの少ない地域住民が「日野川に行ってみよう、日野川でやってみよう」と感じられるようなメニューをいっぱい詰め込みました。平成21年7月26日は、「そうだ！川に行こう日野川自然博覧会」と題して、30人以上の方々が参加した川イベントを実施しました。子どもたちは、魚のつかみ取りから魚のさばきも焼きも経験し、自然観察では、水生生物観察やEポート体験、企業からは、ソーラーパネル展示や魚道システムの展示、行政からは魚道観察など、イベントの準備・宣伝・実践まで行政・住民・企業が一体となってイベントを盛り上げました。そして、このきっかけを活かして、今年も活動をスタートさせています。

第6回 関西元気な地域づくり発表会

NPO法人原始人の会

万願寺地区の田舎風情を活かしたまちづくり

活動方針・目的

一般市民に対して地域の活性化に関する事業を行い、豊かで住みよい地域づくりに寄与する事を目的とする。

活動内容

地元の人々「な〜んも無いところや！」と言います。 都会から来られたお客様は「枯れ葉の舞う音が聞こえるなんて 最高の贅沢！」と仰います。一見何もない山あい炭焼窯を造ってから10年超、奇妙な名前の奇妙なイベントを重ね重ね、地元の人でも誰一人訪れる事なかった地に年間1万人近いお客様が ①湯酒を求め ②猪・鹿肉や田舎料理に故郷を求め ③古民家を改修した2軒の「田舎暮らし体験施設」へ癒しを求め ④「田舎体験男女ふれあい交流会」へ田舎男性との出逢いを求め ⑤放棄田を復活させた「幸せ食材づくり隊」へ食の安全、安心を求め、また、趣旨は違いますが ⑥活動空間の視察等・・・にと全国 各地から色々なお客様にお越し頂けるようになって来ました。一方、3年経って取組んで来た高齢者の足を守る公共交通問題も、コミニスの事業運営を加西市から委託する事が決定し、平成23年2月1日に開業出来る運びとなり、現在の一週6便から一日6便へ交通の便を飛躍的に向上させ、引もとりがちな高齢者が自分で自由に行動出来る喜びを実感頂く事により、高齢者は元より現役の若者への支援が回れるものと確信しています。 また、現状ではマイカー以外当へお越し頂く術はありませんが、バス運行により、公共交通を利用した市内全域や都市部のお客様の集客にも弾みが付くものと期待しています。

第5回 関西元気な地域づくり発表会

北大江地区まちづくり実行委員会

住・職・楽、みんなで取り組む都心のコミュニティづくり

活動方針・目的

北大江地区は、大阪城の西側に位置し、近畿地方整備局をはじめとする官公庁や、学校、大小の事務所ビルや商業施設、マンションや住宅等の混合する、都心の連合振興町会（自治会）の区域である。北大江地区まちづくり実行委員会（<http://kitaoe.ocolog-nifty.com/blog/>）は、平成10年に発足し、「住み、働き、学び、遊ぶ、全てが快適な都心」を、住み、働き、学び、遊ぶ人の協力で実現することを目的としている。

活動内容

日ごろの活動として、まちの中央部に位置する北大江公園の清掃や花壇の管理、天満橋駅周辺を中心とする路上駐輪や道路の不正使用の罰則活動を行うとともに、近畿地方整備局の職員ボランティアが行っている地域清掃に参加している。また、関係機関に参加を求め、花と緑のまちづくりや人にやさしいまちづくりに関する検討会や学習会など意見交換の場を持ち協働のあり方を探っている。 本会の活動と並行して、地域住民等のワークショップでの計画に基づく公園改造、天満橋駅周辺の自転車等放置禁止区域指定と駐輪場整備などが実現し、大阪合同庁舎前の歩行者空間も拡幅に向け事業が進むなど、行政や鉄道事業者による環境整備も進んでいる。 改造が行われた公園では利用者が増えたとともに自主的に清掃をする人も増えたほか、芝生広場など美しくなった環境を活用し、大阪国際女子マラソンに合わせた冬イベント「あったか北大江まち祭り」、まちの特徴である築造工房などの協力による秋のイベント「北大江たそけこサマーWeek」を開催し、都心の魅力向上を進めている。 平成21年度には、社団法人近畿建設協会の支援を受け、「人間重視の道路創造ワークショップ on 泉町」活動として、フォーラムワークショップなどを行った。

第5回 関西元気な地域づくり発表会

堺すずめ踊り協賛会

堺に縁ある「すずめ踊り」を絆とした人が輝き元気な地域づくり

活動方針・目的

「人が輝き、地域を元気に！」を合い言葉として堺にゆかりの深い「すずめ踊り」を堺の市民文化として普及し、「すずめ踊り」を絆として人と人とつながり、喜びが溢れ溢れた生きがいと住みかたのある「まち」づくりを目指すことを目的としている。併せて、「すずめ踊り」発祥の地・仙台と「すずめ踊り」を絆として歴史と文化を共有した京都府堺市の市民「文化交流」を進める。

活動内容

平成17年、市民活動提案を受けていただき（社）堺観光コンベンション協会が堺とゆかりのある「仙臺すずめ踊り」を第32回「堺まつり」に招聘され多くの堺市民に認知させた。さらに、その発祥につながる歴史と文化の背景が話題を集め、「すずめ踊り」の普及活動と、それを機軸として「すずめ踊り」を絆とした仙台・再市民の「すずめ踊り」交流が始まった。 地域や企業など、仲間づくりを中心として踊り、お獅子およびサポーター等実技を構成要素とするグループ（発源：まづら）が主体となった「堺すずめ踊り普及会」が結成され、地域のまつりや各種団体主催行事へ自主的に紹介、普及活動始めた。また、5月「仙台・再堺まつり」と10月「堺まつり」など、仙台市と堺市の代表的な「まつり」の機会を活かして相互に訪問し「すずめ踊り」を絆として再市民の交流が始まった。 普及活動の進行に伴い、運営上の課題として大枠の事業企画および日常的な実技普及活動の財政支援がクローズアップし、これら課題の解消を目的として支援団体として「堺すずめ踊り協議会」が、同時に実技のスキルアップおよび活動に重点を置く「堺すずめ踊り連盟」が発展的に再構築され、活動範囲を拡大し機能分担して普及活動に取り組んでいる。 活動を始め6年経過後2019年3月6日「堺まつり」（10月18日〜19日）においては、メインプログラムの「大小路コンポロード」大1レドで「すずめ踊り」は「堺のアイデンティティ」のグループに位置づけられ、堺の伝統行事「ふんと太鼓」とともに出演し役目を果たした。

第6回 関西元気な地域づくり発表会

京都フラワーーツリズム合同会社

ソーシャルまちおこしICT—地域の人を巻き込んでコンテンツ制作！—

活動方針・目的

- 背景と課題
- 1) 観光地で見かける光景が変わった。訪日外国人は、あたりまえのように、iPhoneを持ってきている！時代は、スマートフォンを利用したモバイル時代に突入。観光情報の発信は紙からスマートフォンへの移行が求められている。
- 2) 観光旅行のニーズが、体験型、現地型に変わってきている。
- 観光まちづくりへの課題は、いかに地域住民を巻き込めるかということ。これらの観光地は、物見遊山のなま所旧跡ではなく、地域に密着した生活文化である。来訪者は、「観光地」ではなく、「生活地」を求めており、いかに地域の生活文化的情報を来訪者に伝える手段を構築するかが重要。
- 一方で、まちづくりに参加したいが、どのようにしてよいかわからない、自分の生活や仕事のパターンを変えずに、あるいはそれを活かして気軽に参加したい、という人々が潜在的にたくさん存在する。

活動内容

- 概要：第5回関西元気な地域づくり発表会で「花なび」の取り組みを紹介したが、その後「花なび」は、上記課題を解決するソーシャルまちおこしICTとして発展させており、その事例を報告する。
- 体制：京都フラワーーツリズム推進協議会の事務局を合同会社として分離独立させ、体制を強化。
- 展開：北海道の富良野へ訪日外国人を含めた観光客として情報発信者が負担のビジネスモデルで導入された（富良野広域圏経済活性化協議会）。出産後の子連れ観光を推進すべくファミナび（授乳室、観光地のトイレ、遊び場などの情報発信）の構築をすすめている（京都子連れ観光推進協議会）。

第6回 関西元気な地域づくり発表会

NPO法人五環生活

高齢者を対象とした自転車タクシーによるコミュニティ輸送事業

活動方針・目的

交通弱者の実態を把握し、日常的な外出機会を創出する事。また、自転車タクシーをコミュニケーションの場としても提供し、これまで雇もりがちな方の日常生活に対し、新しい楽しみを提供し、生活の豊かさを創出する事。

活動内容

対象地区は、旧城下町ということもあり、その雰囲気色を濃く残しているところは一間半（約2.7m）の狭路道路に面しており、タクシーなど車が容易に入れない地域が存在している。細路の奥では移動手段が無い高齢者などが取り残され、引きこもってしまう状況が潜在化している。さらには、コミュニティの経営状況の悪化による系統整理及び減便がさらなる不便を招くという悪循環に陥っている。また、移動に困難を抱える交通弱者の問題は、自治会等では少数のために声があがりづらい。市の調査をしても困っている声はそもそも少数であるために把握しにくい。実際に必要とされる人々にサービス提供ができていないのが現状である。 そこで、自転車タクシーを用いることで、タクシーやバスなどの交通機関ではカバー出来ない部分を補い、移動手段の無い交通弱者にとってドトアドの輸送を実施する。 会員制として利用者を募ることで、実態を把握し、利用者のニーズに沿った自転車タクシーを創り上げる。

第6回 関西元気な地域づくり発表会

輪の国びわ湖推進協議会

びわ湖一周からはじまる自転車普及社会へ

活動方針・目的

滋賀が誇る「びわ湖一周サイクリング(ピウィチ)」を愛称とし、自転車普及社会(低炭素化社会)へ結びつける。自転車の価値・楽しさ・素晴らしさを多様な層に再認識してもらう機会を設け、来訪者を増やすという観光効果だけでなく、環境・健康としての集約的を促進する。スマートフォンとして滋賀が自転車観光のメッカになり、自転車走行環境や協賛ショップにより自転車に配慮した街づくりにつながることで、県民も自転車を利用しやすいまち「輪の国」を目指す。

活動内容

- ①びわ湖一周サイクリング認定証の交付
びわ湖周辺の道の駅など14か所をチェックポイントとしてQR(バーコード)を設置(以下QRポイント)。QRポイントを4か所以上立ち寄り、有料にて申請することで通過時間の記載された認定証と記念ステッカーを発行。
- ②サイクリング情報の提供
Web上(<http://www.biwako.jp/>)にてサイクリング情報を掲載。びわ湖一周の基礎知識や、登録会員の情報を元に、「おすすりコース」、「道の情報」、「イシ・コンベニ」宿泊などの施設情報を地図上に掲載することで、リアルタイムなユーザー参加型のサイトを提供。現在びわ湖一周サイクリングガイドマップを作成中であり、誰もが容易にびわ湖を巡る事ができるように体制を整えている。
- ③協賛店ネットワークの創出
びわ湖沿岸にある宿泊施設、カフェ等が協賛として活動に参加。協賛店には自転車来訪者に対し「サイクリストに優しい」おもてなしを用意してもらい、当HPやイベント時にPR等を実施。
- ④サイクリングツアー・レンタサイクル
誰もが長距離を楽に走れるスポーツバイク(ロード、クロス、MTB等)を常時貸出している。また、滋賀の歴史、自然に触れるサイクリングツアーを開催し、自転車の楽しみ方の提案を実施。

第6回 関西元気な地域づくり発表会

NPO法人 今井まちなみ再生ネットワーク

今井町の空き町家を活用支援によるまちづくり

活動方針・目的

今井町伝統的建造物群保存地区において空き家が増えている。このまま放置すると、歴史的景観が守れないとともに、コミュニティが維持できない。そこで、NPO法人が空き家の有効活用を推進するため、空き家情報を発信するとともに、所有者とユーザーとの橋渡し事業を行い、平成15年から現在まで17件が成立している。しかし、まだまだ、利活用が進んでいない状況である。そこで、より積極的に支援できる組織のあり方を、平成20年度の「200年住まい まちづくり担い手事業」で検討をしたところである。これを踏まえ、現在引き続き、「江戸時代の請人制度」を現代風に活用できないか検討をする。また、一方で、奈良県内の歴史の町並み地区にも、同様に空き家や空き地が増加しており、そこで、それぞれの地区が単独で活動をするのではなく、奈良県内の歴史的地区全体で情報を一元化して、効率的に空き家の活用を進めることを目的とする。

活動内容

- ① 空き家情報の収集・発信
今井町の空き家情報をホームページ、情報誌で発信する。また、これらから、奈良県内の歴史的町並み地区の空き家の発掘をし、ホームページを立ち上げ、ネットワーク化を図る。
- ② 空き家見学会の開催
奈良県の各地で、1泊又は2泊の空き家ツアーを開催し、空き家の内部を実際に見ていただき、まちづくり団体から、各地区の町家の特徴や歴史などを聞き取り理解を深め、空き家利活用情報を図る。
- ③ 生活体験型宿泊施設での社会実験
平成21年度に完成した生活体験型宿泊施設「今井庵・家」に短期間滞在していただき、町家暮らしについて体験し、そこでのアンケート結果を空き家利活用につなげる。
- ④ 江戸時代の請人制度の現状と現代への活用
江戸時代家主と借家人との間に立ち不動産のスムーズな流通をしていた請人制度を研究し現代に支援制度に活用できるかどうかを検討する。

第6回 関西元気な地域づくり発表会

船場アートカフェ

近代建築をはじめとした歴史的建築物等の創造的活用による北船場の都市再生

活動方針・目的

目的は大きく二つある。一つは歴史的建築物の魅力発信を通じて、無機質なオフィス街という街の一般的なイメージを塗り替え、広く地域の内外に向けて、歴史の街・文化の街としての北船場のイメージを定着させること。もうひとつはイベントの企画段階から建築の所有者や地域の方々に参加してもらい、大学と地域の協働を通じて、職業や年齢を超えた、まちづくりを担う都市の新しいコミュニティの核を形成することである。

活動内容

我々は、かつての「大阪版」の栄華を今に伝える歴史的建築物の多さを北船場の大きな個性と捉え、その創造的活用によって内外の関心を高めることで、地域のまちづくりに取り組んでいる。
具体的には、2006年より毎年10～11月に「船場建築祭」と題したイベントを開催している。期間中、複数の歴史的建築物を会場として、アートイベントや近代建築めぐり、カフェや音楽ライブなど、様々なプログラムを実施している。とりわけ2008年からは「まちの commons」と副題に加え、建築に限らず北船場の豊かな歴史や文化を様々な角度から紹介するプログラムを実施し、加えて公開空間などのオープンスペース活用を実施するなど、歴史的建築物を中心としながらも、包括的に北船場の魅力を発信するイベントとして規模を拡大している。

第6回 関西元気な地域づくり発表会

やまと郡山環境を良くする市民の会

大和郡山市誇りを持てるまちづくり

活動方針・目的

自分たちの街に、誇りを持つまちづくり。
身近な環境の景観、「やまと郡山百景」を選び、市民に知らせ、守り・美しい街を創造し後世に繋いでゆく活動。
当会では、環境が良くなったと言われる街づくりを行っています。 「環境」には広い概念があるため、「環境」を地球・自然・生活・歴史文化で捉えています。この流れは、地球が進化した 方向で、その副作用が環境問題です。バランスがとれた発展が重要で、その一環としての歴史 文化環境の活動です。

活動内容

- 「やまと郡山百景」を選定、市民に知らせ美しい街づくりに繋ぐ。
- 「やまと郡山百景」の写真展、冊子「やまと郡山百景」制作(2版出版)、講演会開催。
- まちを歩いて見てみよう(講演と現地探訪)の催し実施
- 平成21年度 大和橋の民家がある集落を歩く
- 平成22年度 天龍閣稲富伝承地1探訪
- 平成22年度郡山再発見ウォーク/大和郡山観光ボランティアクラブが案内
- 大和郡山観光ボランティアクラブと共同で実施する。
- 平成21年3月選定の「やまと郡山百景」の地を回る催しを実施、11回実施する。

第6回 関西元気な地域づくり発表会

「うるわしのみち 愛宕街道古道を良くする会」推進協議会

「もてなし空間、歴史のまち、憩いのまち」に向けて

これまでの活動内容と今後の展開

愛宕街道の自然、歴史、文化、風景をテーマとして、NPOうるわしのみち・まちづくり、嵯峨野保衛会、研究者等が基盤となって多様な来訪者との交流を重んじ、地域の魅力の発信と再発見を重ねながら、美しい地域と魅力的な道空間創造を画している。ワークショップや外部アドバイザーを招き、地域住民や来訪者の愛宕街道の理解を深め、活動の活性化を図っている。リーフレットの作成や地域再発見ワークショップを通じて、即時的な課題(道しるべ、空間演出等)の抽出を行っており、その実現化に向けた景観検討を進めている。
NPOうるわしのみちまちづくりから地域の嵯峨野保衛会が指定管理者を引継ぎ伝統的建築の保存、観光資源としての活用を目指して京都府嵯峨鳥居本まち並み保存館の管理運営を行っている。

活動の目標とその達成状況

「愛宕街道(京都鳥居本)」の地域資源の抽出・整理、景観阻害要素の改善の提案、そしてホスピタリティを具体化する装置として、道しるべ等のデザインを検討を行っている。景観を阻害する自動販売機の具体的なデザインを試み、比較的容易な景観配慮型取組として、期待できる結果となった。
意見交換会として、風景街道「たんば三街道」推進協議会「たんば道えし」の視察を受け実施し、相違点を踏まえたうえで、外から見た街道の特徴、生かすべき資源、資源の発信方法についてアイデアラッシュを行うことができた。また、町並みワークショップの開催(地域住民及び外の目から地域を客観的に眺め課題等抽出)により、担い手の面でも多くの課題が明らかになり、外部の技術と知恵を活用する必要性を認識した。

第6回 関西元気な地域づくり発表会

NPO吹田歴史文化まちづくり協会

歴史的民家(通称浜屋敷)を活用したまちづくり

活動方針

平成15年、吹田市は指定された江戸時代後期の歴史的民家を保存・修復し、歴史・文化のまちづくりに関する市民交流の場として「吹田歴史文化まちづくりセンター(通称浜屋敷)」をオープンさせた。浜屋敷は吹田市の公設民営施設として、吹田歴史文化まちづくり協会(平成19年特定非営利活動法人となる)が運営することとなった。以後現在に至るまでNPOの歴史文化まちづくり協会(公益法人)は指定管理者として、施設の維持管理及び事業の企画運営を行い、地域のまちづくり拠点施設として活用している。
協会は、古民家(浜屋敷)を、歴史と文化のまちづくりを進めるために、「市民活動の支援並びに市民相互の交流及び連携の促進」「情報の提供」「講座・研究会等の開催」「地域の伝統的資源の収集及び活用」などの活動方針を掲げて活動を行っている。また活動としては、清掃ボランティア、まち並みウォークの開催によるまち並み維持などを行っている。

活動内容

- 浜屋敷活動は、年間来館者数約2万人超となり市民に活動、交流・情報の場を提供している。事業としては、歴史的建築物「浜屋敷」を生かした様々な事業の企画・実施により地域活性化に取り組んでいる。
- 歴史的民家(浜屋敷)を活用した伝統行事の実施
正月飾り・かたじけなく・ひな祭り・端午の節句・七夕祭り・月見茶会・餅つき・年越しそば等様々な伝統行事の実施。
- 地域の民俗資料の収集・保管・公開
郷土家史家加賀野砂子氏収集による郷土資料を中心とした「加賀野砂子文庫」の開設など地域の民俗資料の収集。
- 地域伝承系伝達者の確保
吹田の歴史に携わっている郷土の歴史家・民俗学・歴史の専門家。
- 郷土史講座の開催による郷土文化・芸術・歴史の継承。
- 地域資源の発信
ボランティア(吹田まち並み案内)が行うまち並み案内による地域資源のまちづくり活動
公開講座(まち歩き研究会)「吹田の街」「地域のチカラ」等による地域の魅力発信
歴史的建築物の新たな利用の試み
現代アート展覧会「古民家まるごとアートまるかじり展」の開催による、古民家の新たな魅力の発信。
へつりを使った料理講座、庭園を活用した創作絵画など浜屋敷の施設、敷地を活用した新たな試み。

第6回 関西元気な地域づくり発表会

中区ふれあい事業推進委員会

堺市中区ワールドミュージアム構想

活動方針・目的

行基ゆかりの地であり、陶器(須恵器)発祥の地でもある堺市中区では、歴史文化資源に恵まれないながらも、地元住民の間でさえもその認知度は低かった。そこで、中区に眠る歴史文化資源を掘りおこし、内外へPRすることで、自らの地域へ愛着や誇りを持ってもらい、地域力を向上することを目的として活動している。

活動内容

中区まちづくり考房は、平成16年に「防災」「魅力創出」をテーマに活動を開始した。平成19年からは「生活環境」「歴史文化」をテーマに活動を展開している。
「歴史文化」グループでは、月に1回の定例会議に加え、まちあるきなどフィールドワークを実施し、中区の歴史文化資源をいかに地域住民に伝えるか議論を重ねた。その結果、中区全体を博物館に捉える「中区フィールドミュージアム」として魅力をPRしていくこととなった。
資源地帯のテーマとして、「陶の里」「たぬ池水車」を選定し、ガイドツアーを開催した。ガイドツアーを開催するにあたり、ツールとしてのガイドブック作成や先進地視察をおこなった。
また、活動の成果発表として、中区内の自治会役員等を対象にフォーラムを開催し、取り組みを他地域にPRした。

第6回 関西元気な地域づくり発表会

奈良県山辺郡山添村岩屋「風の会・青葉」

岩屋地区の「いなか市」を活かしたむらおこし

活動方針・目的

山添村岩屋地区は、同村内で最も大きな集落でありながら、高齢化が進み、耕作放棄地の広がりなど農地の荒廃がすすんでいる。しかし、地域では、その現状を変えようとする壮年層があり、「風の会・青葉」を結成。地域資源を活かし、「いなか市」のとりくみなど、周辺都市住民との交流を通じて、地域の再生・活性化をはかることとしている。

活動内容

2009年春から農地環境整備事業の導入に際して、耕作放棄地の解消や地域活性化に向けて会合を重ねてきた。同年12月に「第1回岩屋いなか市」を開催、続いて2010年6月に「第2回岩屋いなか市ホタル鑑賞の夕べ」、11月の「第3回岩屋いなか市」を開催し、近隣の三重県名張市など都市住民との交流をはかっていた。この「いなか市」のとりくみを通じて、これまで捨てられていた地域の農産物が、高齢者をはじめとした地域の兼業農家の臨時収入となっている。

第6回 関西元気な地域づくり発表会

長岡中央商店街振興組合・京都府長岡京市役所 環境政策推進課 “チームアゼリア” 商店街から発信する地域協働の環境まちづくり

活動方針・目的

商店街が住民、環境団体、行政等地域を構成する多様な主体と連携し、環境保全と環境都市の実現に向けた取組みを実施することにより、美しい空間・ゆとの空間として「美意識」を創出し、地域に活力を取り戻す。

活動内容

商店街と地域住民、環境団体、金融機関、行政機関等の連携による「チームアゼリア」を結成し、当時市販されていなかった街灯用LEDランプの自作に取りかかる。作製プロセスは小学校の環境教育にも組み込まれ、1年がかりで完成したLEDランプは、現在市販されているLED街灯のプロトタイプとなる。
この取組みにより地域の連携が深まり、「花いっぱい運動」や「打ち水大作戦」、「地産地消の食の祭典」、「清掃活動」、市の環境フェアへの出展など様々な取組みを商店街が中心になって行っている。

第7回 関西元気な地域づくり発表会

K&Y Distribution LLP

映像を活用した観光推進と地域活性

活動方針・目的

日本の経済は至るところにひずみと問題を抱え、行き場を失った状態。しかし海外へ目を向けると特にアジア市場では好景気は経済は成長している。幸運にも日本がこれまで培ってきた技術や文化、歴史、産業など海外市場へ展開することで活路を見いだせるものがある。それらを総合的に海外へ発信していくことで、地元経済の活性化と海外からの日本訪問者増を狙い、外貨を獲得することで、結果として日本が元気な状態を目指す。

活動内容

平成22年度総務事業「地域コンテンツの海外展開実証実験事業」において、企画が採択され映像作品を製作。その作品はシンガポールの地上波とアジア圏をカバーする衛星放送局で放送された。その後エアラインでのインフラ番組と韓国でのオンライン配信などで利用されている。作品内で取材した日本酒と、近畿地区の田舎にある酒蔵は本作品をとおして何万人もの視聴者の目に触れることとなった。
その結果、各酒蔵の商品が売れたり、日本酒に興味をもって日本を訪れる人が増えることを期待している。また酒蔵へ日本酒を飲みに行ってくれたら地方活性化にもつながり、波及効果は日本酒業界だけでなく異分野にも広がっていくことを期待している。
映像製作者として、現在の下調べ構造から脱却するために海外のテレビ局と仕事をすることで新しい活路を見いだすことも目指している。同時に海外進出や海外から入るビジネスの誘致を目指す企業に同様の手法での広報、広告などを行うツールを提供することで、新しい市場への足がかりや収入源へのアプローチを可能に出来るようにしたいと考えている。
上記作品は、総務事業では奨励賞を受賞。その後、全国地域映像団体協議会の全国フォーラムで経済産業大臣賞を受賞。
総務省の予算で製作した作品で経済産業大臣賞を受賞するという、省庁の壁を超えた事業に仕立てあげること、美観の結果や効果を持って各庁庁に連携を促している。

第7回 関西元気な地域づくり発表会

宮津市エコツーリズム推進協議会

宮津市の自然・歴史文化・生活技術を活かしたエコツーリズムによる地域づくり

活動方針・目的

従来天候に依存した観光のあり方を見直し、地域の自然や歴史文化・生活技術を住民・団体の工夫によって観光につなげることで地域が一体となって賑わいを創出する取り組みに取り組み。
「話ものだから、触れたい、出会いたいー宮津天橋立・本物こだわり旅」をキャッチフレーズに、ひと・食・体験で来訪者と地域がつながるプログラムづくりを目指している。地域の当たり前にこだわり、持続可能な取組を目指す。

活動内容

無理をした「ツクリモノ」ではない「今・ここ・本物」にこだわったガイドや体験プログラムを提供するほか、地域ごとに事業者・加工グループと担当「食事・土産物の企画、住民参加型ツアーマーケットの実施など」。
旅行会社とタイアップした企画ツアーでは、多くの来訪者に「ありがとう。」「また来たいです。」といった言葉をいただき、リピーターも多い。こうした心の交流が住民の誇りづくりにつながり地域を元気にしている。

活動内容

「観光」を地域活性化に利用する取り組みは世界中で実施されており、これから観光現象の多様化が見込まれる。いわゆる「住民の顔が見えない観光」ではなく、「住民の顔が見える観光」に魅力を感じる観光客が増加しているのだ。
人と人が貨幣や商品によって繋げられるのではなく、人によって結び付けられるという時代錯誤な考えに、人間本来の生き方を再見聞することができるのではないだろうか。
本活動では、地域の資源を他地域へ発信する媒材としての「人」の可能性を考えたい。

第7回 関西元気な地域づくり発表会

和歌山大学観光学研究所

地域の光を観る～田辺市近露の山から～

活動方針・目的

地域における観光の主体は時代とともに変化している。観光事業者が主体として活躍していた観光形態も発展を遂げ、今では地域住民が主体となった形態が観光を浴びている。
「観光」を地域活性化に利用する取り組みは世界中で実施されており、これから観光現象の多様化が見込まれる。いわゆる「住民の顔が見えない観光」ではなく、「住民の顔が見える観光」に魅力を感じる観光客が増加しているのだ。
人と人が貨幣や商品によって繋げられるのではなく、人によって結び付けられるという時代錯誤な考えに、人間本来の生き方を再見聞することができるのではないだろうか。
本活動では、地域の資源を他地域へ発信する媒材としての「人」の可能性を考えたい。

活動内容

ある人が見れば「ゴミ」だが、別の人がすれば「宝物」に見える。」これは、日常生活においてあまり珍しいことではない。この活動も、そういった「ありかち」なところから始まっている。
山には、商品化された市場で売買される木々だけが揃っているわけではなく、生育の過程で他の樹木の育成を妨げる支障木や古木も存在する。「ゴミ」と見られていた山の支障木や古木を、いけばな作品に生まれ変わらせたい。そして、いけばな作品で人々に何かを伝えたい。こういった思いを形にすべく、近露の人々からいけばな花材提供を受け、地域の魅力を発信している。

第6回 関西元気な地域づくり発表会

NPO法人南港ウェットランドグループ

南港生きもの発見隊&南港生きもの育て隊

活動方針・目的

昭和58年に開闢した大阪南港野鳥園には、干潟が人工的に創出されていて、渡り鳥であるシギ・チドリ類の重要な生息地となっています。「NPO法人南港ウェットランドグループ(前身の環境NGO「南港グループ 96」は平成8年に結成)は、この大阪南港野鳥園において「渡り鳥が利用し、多様な生きものが生息する湿地を創出し、その保全が地域の活動となること」を目的とし、①環境の監視と生物総合調査、②湿地を健全に維持するための環境保全作業、③湿地の役割や楽しさを伝えるための教育・普及活動、④ネットワーク参加地間の交流を継続的に実施しています。また、平成18年度からは大阪南港野鳥園の運営管理も行っています。

活動内容

シギ・チドリ類などの野鳥や干潟の生きもの調査、来園者への観察指導だけでなく、月に1回以上、野鳥や干潟の生きもの観察会、環境教育プログラム講習会を主とした「南港生きもの発見隊」、「アオサ取り(大量に発生する海藻類の除去作業)」や、湿地部の清掃などの環境保全作業を主とした「南港生きもの育て隊」を開催し、多くの市民の方に参加していただいています。大阪市住之江区の探鳥会などに協力し、地元高校での環境教育プログラムの実習、大阪市こども青少年局「サマースクールシティ事業(夏休み期間中子どもを対象に調査、観察、環境保全、環境教育などの実習)」も実施し、大阪市港湾局「リフレッシュ瀬戸内」、「クリーンアップキャンペーン」などの湿地の清掃にも協力しています。観察や環境保全作業を通して、大阪湾、干潟を含む湿地、シギ・チドリ類、生物多様性、環境について学習できる場を提供しています。

第7回 関西元気な地域づくり発表会

「うるわしのみち愛宕古道街道を良くする会」推進協議会

うるわしのみち愛宕古道街道の観光交流

活動方針・目的

「もてなし空間、歴史のまち、憩いのまちに向けて」をテーマに、千年の歴史が息づく京都総領居本地域の景観を愛し、守る心を次世代に受け継ぐ取り組みを推進している。

活動内容

愛宕街道(京都総領居本)の自然、歴史、文化、風景をテーマとして、「NPOうるわしのみちづくり」、「総領居本保存会」、研究者等が基盤となって、多様な来訪者との交流を重ねながら、地域の魅力の発信と再発見を目指した魅力的な遊歩道を創出している。
「うるわしのみち愛宕古道街道を良くする会」推進協議会のメンバーである「総領居本保存会」は、観光景勝地である愛宕街道(京都総領居本)の美化的維持や、観光地としての魅力向上のために地域住民によって自主的に組織された団体であり、地域の個性を活かしたイベントを展開している。特に1996年から始まった「愛宕古道街道灯し」は、夏は暑熱の夏風物詩となっている。また、「京都市総領居本町並み保存会」の管理運営を行い、伝統的建造物群保存地区における町並み保存の必要性を啓発する取り組みを行っている。
<平成23年度の主な取り組み>
・ワークショップ(フワワーアレンジメント、ポーセリンアートなど)の開催
・愛宕古道街道灯しの開催
・絵画展の開催 など

第7回 関西元気な地域づくり発表会

若狭熊川宿まちづくり特別委員会

若狭鯖街道熊川宿のみんながよくなるまちづくり

活動方針・目的

熊川は、国の重要伝統的建造物群保存地区として歴史の景観の保存が図られている地域のため、歴史や自然を活用しながら、ここに暮らす人々が「住み続けたい」、訪れる人々が「また来たい」と思う環境整備を続けています。住民が主体となり行政がサポートしながら活動しており、伝統文化活動の活性化や観光客の大幅な増加につながっています。

活動内容

まずは、住民が快適に住み続けたいと思えるまちづくりを目標に、地域に誇りが持てるような環境整備を進めました。活動は、定期的な建物の修理、前川用水(平成の名水百選)の清掃作業、街並みを俯瞰できる高台への遊歩道の整備など多岐におよび、これらを継続することで建物補修技術の研究と伝承にも発展しています。地域の誇れる伝統文化として京都の一乗寺郷土芸能保存会との交流により、京都から伝わったとされる「てっせん唄」を80年ぶりに復活させ、地元小学校にも出向いて、郷土愛の醸成と文化伝承の活動にも取り組んでいます。このように住民が我が街をより良くしていくことで、観光客増加の波及効果となっています。また、住民と観光客の交流を進めることを目的とした「熊川おもてなしの会」を設立し、旧家を活用した喫茶「勅兵衛茶屋」とお泊まり処「熊川宿兵衛」を運営しています。さらに若手を中心として、観光イベント「熊川いっぴく時代村」の開催を定着させ、醍醐かつゼリスなど工夫を凝らした催しがリピーターの獲得に一役かっています。

第7回 関西元気な地域づくり発表会

兵庫県丹波市・かみくげ恐竜の里づくり協議会

山南町の恐竜化石を活かしたまちづくり

活動方針・目的

国内最大級の早食恐竜(丹波竜)化石の発見を千載一瞬のチャンスととらえ、恐竜化石を地域資源に活用したまちづくりを住民一丸となって推進し、地域の活性化と収益性をめざす。来訪者からの経済効果を期待したまちづくり活動を通して得た収益金を高齢者の福利厚生や子育てに励む若い家族を支援、応援する地域固有の方策で地元還元することを総局の目標とする。

活動内容

恐竜化石発露現場から取り出した小石を割って1億年前の生物の化石(恐竜のほか小動物、貝類、たまごの殻など)を探る発露体験を小学生から大人までを対象にして自然科学の学習を実施。また、発露現場周辺の地層、断層、岩石など地質学習の場として市内外に広くPR。悪化登録された恐竜焼き(地元小納言小豆入りとお好み焼き風味)の販売による丹波竜の里のPR、地元産農産物のほか、恐竜関連グッズの販売や各種イベントの開催など。

第7回 関西元気な地域づくり発表会

NPO法人 シニア自然大学校

地域資源～「菊炭」を活かした伝統文化と次世代に伝える活動・展開

活動方針・目的

H16年8月に菊炭プロジェクト設立（大阪府助成金）目的：伝統文化・茶の湯文化を絶やさない事と「後継者育成」を掲げて運動を展開。
H16年9月 第1回菊炭体験講座(12回分・ス) 開講
H17年10月 菊炭クラブ設立（20人で活動を開始）

活動内容

(H23年度は45人で活動しています)

- ①池田炭の生産技術の継承と菊炭生産の継続（道具炭の販売 等）
- ②クスギ里山林の整備・炭焼（39回）& クスギの森づくり（11回）
- ③菊炭体験講座の開催と後継者を育てる活動（6回講座 全12回）
- ④里山体験学習の開催（小学生向け）（4校）& 池田炭見学会（地域の市民）（1回）（それ以外に池田炭加工所で菊炭加工品開発を15人で活動）
- ⑤その間 後継者候補 2人(30代)程度出ましたが残念ながら長続きさせませんでした。その後「グループ」で「池田炭を護る運動」に転換して来ました。4年前には下西名人の門下生として「下西派」を護ってきました。
- ⑥もう一つは里山を「次世代に伝える運動」を小学生に里山体験学習として大阪府の支援を受けて5年間活動を積極的に展開して来ました。

第7回 関西元気な地域づくり発表会

兵庫県上郡町 産業振興課・赤松校区むらづくり推進委員会・大鳥圭介公生誕地保存会

大鳥圭介没後100年を活かした地域づくり

活動方針・目的

兵庫県赤穂郡上郡町赤松地区は、南北朝時代の播磨の武将「赤松円心」の郷として多くの文化財を残し、白旗城跡の国指定から約20年間「白旗城まつり」を開催してきた。さらに、もう一人の偉人、幕末から明治にかけて国の近代化に貢献した「大鳥圭介」の生誕地が存在している。2011年6月に大鳥圭介没後100年を迎えるにあたり、地区住民はと協働で、生誕地を保存し、郷土の偉人を再顕彰し情報発信してきた。

活動内容

没後100年の節目に向けての旗揚げとなったフォーラム開催後、兵庫県の県民交流広場事業の活用と募金をつくり、「大鳥圭介生誕地」にいきいき交流ふるさと館」を建立。
町と協働で「圭介まつり」や「大鳥圭介の書展」「歴史ハイキング」を実施するとともに、地元小学生の社会学習として「圭介塾」の実施や「ふれあい喫茶」を定期的に開催することで、全国から圭介ファンが訪れ情報交換を図ることができるようになった。さらに、町ではまじり助成を受け、約100名のボランティアによるアニメ「けいけいじゃ」（全20話）を完成させ、2011年より順次CATV「えんしんネット」において放映した。

第7回 関西元気な地域づくり発表会

竹あかりの集い実行委員会

協働ですすめる防災イベント「竹あかりの集い」 ～子どもたちを災害から守りたい～

活動方針・目的

竹あかりの集い実行委員会では、阪神淡路大震災の犠牲者を悼悼し、ボランティアの輪を広げながら安全な町づくりをすすめてきました。このたびの東日本大震災、台風12号の大災害を教訓として、地域の絆をさらに強め、防災の意識を高めることを目的として、3月10日（土）、第9回「竹あかりの集い」を開催します。

活動内容

- ・式典（点灯・防災ずきん寄贈式・若手らの幼稚園児への励ましメッセージ）
- ・平群町と若手組「繋がる元氣プロジェクト」(パネル展)
- ・東日本大震災写真展（写真家 三田崇博さん）
- ・防災スタンプラリー・防災体験コーナー
- ・ボランティア広場（点字・手話・ローソク作り）
- ・全員が心をあわせて「けいけいじゃ」
- ・炊き出し配布（豚汁350食 非常食かやくご飯300食）

第7回 関西元気な地域づくり発表会

養田まちづくり委員会

環境保全をはじめ、防災力を次世代につなげる地域づくり

活動方針・目的

阪神淡路大震災を契機に、「地域づくり」が叫ばれ重要性を痛感し、地域の活動を強化した。まだ記憶に新しい兵庫県佐用町の水害は、我々河川沿いの地域にとっては、決して他人事ではなく、平時からの備えを万全に整える必要があり、少しでも減災となるよう活動を継続している。目標は、当地域から犠牲者を一人も出さない事が原点であり今後もこのために活動を展開していく。

活動内容

活動の発端は、地域に流れる養田川の改修問題。小さな小川であったが、土地区画整理事業により川の付替え工事の計画が持ち込まれた。しかし、我々にとってはこれまで慣れ親しんだ貴重な自然空間のため、小川がコンクリートの水路になってしまうことに皆が戸惑い、地域の声によって小川は残しつつ改修と必要工事（バイパス水路の設置）を進める方針に変更させた。結果として、これまで通り自然豊かな養田川と新しいバイパス水路の2つの川が地域に残った。この一連の地域のアクションがきっかけとなり、地域では養田川の愛護精神が目覚め、年々環境が悪化する養田川の高水活動が始まった。以降は毎年地域としてクリーン作戦を展開し、地域の絆を醸成することになった。これを基盤として地域をより住みよくなるため、各種活動を展開中。特に、防災・防災力の向上には積極的に活動しており、東日本大震災をきっかけとし、一層力を入れている。今では皆が地域づくりの活動に誇りをもっている。

第7回 関西元気な地域づくり発表会

(社)石山観光協会、近江しじみ貝塚研究会

歴史遺産「石山貝塚、蛭谷貝塚、粟津湖底貝塚」など日本最大淡水貝塚の常設展示館（仮称石山貝塚ミュージアム）開設への取り組みについて

活動方針・目的

当地大津市 石山には約1300年前の奈良時代に創建の名刹「石山寺」があり、西国三十三番霊場第三十三番札所で、毎年参詣者は40万人にもなり、賑わいを誇っている。

周辺は琵琶湖から流れ出る瀬田川の清流もあって、風光明媚であり、観光地による湖上観光も盛んなる著名な観光地でもある。この石山周辺に、今から約6000～7000年前の縄文時代の生活の足跡である「石山貝塚、蛭谷貝塚」また約2km離れた琵琶湖の湖底に「粟津湖底貝塚」が約80年前に発掘されている。その貝塚の存在や発掘された多くの出土品は考古学的に見ても非常に貴重なものであり、特に石山貝塚の出土品の土器は石山式土器と命名され、縄文時代早期の標準遺跡として日本の考古学者で知らないものはないとも云われている。

私ども地元住民、観光業者などは、この貴重な歴史遺産「石山貝塚、蛭谷貝塚、粟津湖底貝塚」をより広く紹介したいものと考えており、これを国指定の史跡に指定すべく昨年度より大津市の「ワーアップ事業」の助成を受けて、種々の活動を始めている。

活動内容、期待される効果など

昨年度平成23年度は大津市の「ワーアップ事業」の助成を受け、下記の活動を行って成果を挙げた。

- ①「粟津湖底貝塚船上見学」「しじみ採り体験」「しじみの食体験」
- ②三大淡水湖「石山貝塚、蛭谷貝塚、粟津湖底貝塚」講演会、展示会
- 平成24年度も引き続きこの活動を継続し、私どもの目標としている史跡の国指定、「石山貝塚、蛭谷貝塚、粟津湖底貝塚」など淡水貝塚の常設展示館（仮称石山貝塚ミュージアム）の開設準備を進めたいと考えている。常設展示館では、貝塚からうかがえる縄文人の生活、考古学的な価値などの紹介、貴重な出土品の展示を行うことを目標としている。これが実現すれば、石山周辺は名刹石山寺の参詣客に加えて、石山貝塚ミュージアムへの多くの来訪者も予想され、観光地としての一層の活性化が期待できる。

第7回 関西元気な地域づくり発表会

市民フォーラムおおさか実行委員会

コミュニティ・コミュニケーションを築く ～出会いと学びと実践と“防災・減災”をとおして～

活動方針・目的

市民フォーラムおおさかでは、現在、私たちが暮らしている地域「コミュニティ」のこれからを考えていくために、身近な地域の中でフォーラムを開くことで、多くの方に学びや気づきの機会づくりを目指しています。

活動内容

今年度は、昨年度より引き続き「防災・減災」を重点テーマに、大阪市内各所でこのテーマにまつフォーラムを実施し、私たちが住む地域を基盤とした「コミュニティコミュニケーション」を目指します。フォーラムの内容は、NPO団体や市民活動団体など様々な活動をしている実行委員が、福祉、環境、健康、芸術など幅広いジャンルのフォーラムを展開しています。

第7回 関西元気な地域づくり発表会

中山台コミュニティ緑化環境対策部

花と緑の創出による地域コミュニティ

活動方針・目的

中山台コミュニティは、兵庫県宝塚市の市街地北部に位置する昭和40年代に開発された新興住宅地の地域コミュニティです。中山台コミュニティでは、11の自治会と8つの専門部会で構成され日々住民のための活動を展開しています。当地区内にある自然緑地には、かつて一面にわたってヤシャブシが生えており、平成6年頃にはヤシャブシによるアレルギー等の問題が深刻化し、その解決が地域の大きな課題となっていました。そこで自治会協議会は平成7年に緑化対策部を立ち上げ（現在はコミュニティの部会の一つ）取り組みを開始しました。当部はニータウン内を望ましい緑生に復元し住民の健康維持とふさわしい緑化環境の整備保全を目的としています。約10年でほぼヤシャブシは一掃され、活動は現在花と緑の創出による良好な緑地管理に主軸を移しており、今後の継続と発展を目指し新たな目標として「30年計画」を掲げ、「美しい自然に囲まれた快適な暮らし」の実現に向けて活動を継続しています。

活動内容

当部は自治会の活動を基本にニータウン全体の緑化事業を担当しています。自治会間の調整や行政との窓口の役割、全体の作業などを実施しています。

活動により、約10年かかり推定2万本の膨大なヤシャブシが一掃された後には、在来種のアザミやサクランボ等がよみがえり、シンボルゾーンとして「ヒベリカムの丘」等を整備し、住宅地としての魅力を一層高める美しい緑地空間に改善しました。「行政だけでなく、住民だけでもできないことを共に協力して～」をモットーに、住民が処理し行政が片づけることなど役割分担を明確にし、取り組み始めてから16年間職員と合同で緑化活動等を定期的に行う等して、官民協働の関係も構築できました。最近では、地区内の5つの公園について市と管理契約を締結して自治会が管理業務を請け負うほか、小学校のPTAや教員も一緒に、教育活動の一環として学内の緑化活動にも取り組んでいます。

平成22年度の活動実績は費用約253万円、活動回数50回 延べ参加人数818人でした。

第7回 関西元気な地域づくり発表会

NPO法人緑化でまちづくりの会

公園美化と地域づくり

活動方針・目的/活動内容

(各団体によって多少異なるため、「森町花づくりの会」の事例を記述)

「森町花づくりの会」は平成10年11月に立ち上げ、約20名の会員で「私達の方針（仮称）」として次の項目を掲げて取り組んでおります。
(1)ゴミ箱を置かない公園にしよう (2)人が集まる公園にしよう (3)公園でイベントをやろう (4)花ガラはゴミとせず堆肥化しよう等々。これらは現在も永々と継続されております。平成14年に大阪府公園緑化推進協議会賞、19年に国土交通大臣賞を受賞しております。

第8回 関西元気な地域づくり発表会

A-yan!!関西をアートで盛り上げるNPO

みんなでつくるおぼけ屋敷を通した町の活性化促進

活動方針・目的

地域の子供たちや住民、またその地域を愛する人たちが一緒に企画を立ち上げるところからはじめることで、「自分自身に出会いたい」「非日常的な体験をしてみたい」等自の目的だった人にも、ワークショップや制作活動を通して周りの人や住んでる町の歴史や愛着の再確認、またその気持ちを大阪や関西といったより大きなエリアへも広げて考えてもらえるようにするのが強い。みんなで一緒に楽しめ盛り上がりながら大阪の地域活性化の一助を担う人材の発掘・及び育成のきっかけを自習コミュニティ活動を展開、また他地域からの来訪が見込めるイベントとする。

活動内容

地域イベントなどでの開催を目標に数回のワークショップを行う。
内容は演技指導だけでなく、郷土史や民話などをベースに地域独自のおぼけ屋敷を構築参加者と共に考え、地域に根差したおぼけ屋敷作りをする。

第8回 関西元気な地域づくり発表会

まちなか運営協議会

季節を彩るおもてなしを～名張市旧細川邸「やなせ宿」の取組～

活動方針・目的

名張地区は名張藩家邸跡などの歴史文化資源や伝統行事、薬湯水路や名張川などの豊かな自然資源に恵まれています。その一方で全体的な過疎化・空洞化が大きな課題となっています。
このような背景のもとで、名張地区の既成市街地の再生を目指して、平成17年に市民、事業者、各種団体、行政など多様な主体がメンバーとなって「名張まちなか再生プラン」が策定されました。この中で旧細川邸の改修が位置づけられ、当協議会が名張地区の歴史文化資源、豊かな自然資源を活かした施設運営を始めるとなりました。

活動内容

当協議会は市民、事業者、各種団体などが中心となり組織された団体で、名張川、宇陀川の合流点に近接する立地を活かし、地元名産川魚協同組合や河川リベンジャーとの連携による水生生物調査やホテル再生に向けた取組、ミニ水族館事業などの環境学習、親子釣り体験教室、地元園児連による稚魚の放流体験などの市民参加型イベントを企画、実施しています。
また、施設の前には旧初瀬街道が通り、江戸時代に宿場町として栄えた風情を残していることから、歴（なばり）街市道などの様々な活動の拠点にもなっています。
日常的には、地域活動や生涯学習の舞台となる貸館事業と共にまち歩き体憩所として、また市民憩いの場となる喫茶の運営を行い、市民が日替りシェフとなるワンディレストランの事業を展開しています。

第8回 関西元気な地域づくり発表会

西播磨なぎさ回廊づくり連絡会

西播磨のなぎさによる賑わいづくり

活動方針・目的

国立公園という保護された環境の中で西播磨のなぎさ有する、魅力を最大限に活用し、地域住民、団体、行政が連携し、自主的・主体的な活動の展開、地域内外の人々の交流を進め、なぎさの魅力向上と地域内外の交流により地域の活性化を目的とする。

活動内容

- (1) 西播磨臨海部のなぎさを守る活動
- (2) 西播磨臨海部の魅力あるなぎさを創るための活動
- (3) 西播磨臨海部でより多くの人が魅力あるなぎさを楽しむための活動
- (4) 多くの人が交流する舞台としてのなぎさづくりを進めるための活動
- (5) なぎさに関する情報発信活動
- (6) その他、本会の目的達成に必要な活動

第8回 関西元気な地域づくり発表会

NPO法人 羽曳が丘E&L・大阪府立大学看護学部

環境と生活が調和するまちづくり

活動方針・目的

昭和37年、羽曳が丘の住宅開発が開始されました。昭和39年には羽曳が丘の各町会が、羽曳野市と公園・Jバス等・集会所などの設置を協議する羽曳が丘町会連合会を組織しました。現在、羽曳が丘では、1町会・戸数3,800戸・人口11,200人・町会世帯加入率は99%になり、羽曳が丘町会連合会を基盤にして住民活動を継続、実践しています。
平成16年には、羽曳が丘町会連合会と地域団体が集まって、「NPO法人 羽曳が丘E&L」(EはEcology・LはLife)を設立しました。当法人は行政機関へ住民参加のまちづくりの提案と、環境と生活が調和する住みよいまちづくりの実践が目的です。

活動内容

- ①NPO法人 羽曳が丘E&Lの活動内容
 - 「環境部」自然環境保全・資源リサイクル・地域交流行事主催と企画
 - 「生活部」高齢者へ憩いの調理宅配・交流サロン・大阪府立大学学生の実習支援
 - 「ピオトープ部」ピオトープ整備・ピオトープフェスタ開催・幼稚園と小学校への出前教室
 - 「管理部」事務会計・集会所管理・広報紙発行・印刷事業
- ②大阪府立大学との連携活動
 - 当法人は近隣の大阪府立大学看護学部の学生や教員と連携活動を実践しています。地域スタッフが大学の授業に参加して地域活動の説明会を行い、学生や教員が地域拠点で実習・測定会・地域調査などを実施しています。地域と大学がそれぞれの特徴を活かすことで、環境と生活と保健の視点が融合され、お互いの相乗効果につながっています。

第8回 関西元気な地域づくり発表会

いえしまコンシェルジュ

姫路市の離島いえしまにおける観光まちづくり

活動方針・目的

・人口減少化社会における地方都市の自立を目指し、地域住民とともに「いえしま」を観光によって活性化させる。

活動内容

・いえしまコンシェルジュは、姫路市の離島いえしまにおいて活動しています。
家は漁業・採石・海運業で栄えてきましたが、景気の悪化、公共工事の縮減により地域経済が低迷、それに伴う急激な人口の減少が起こっています。これらは今後の日本の都市が直面する地域の課題です。
しかし、離島で育まれてきた独自の生活文化はほかの地域では見ることができない、少し不思議な魅力があふれています！この魅力を伝えたい！！と思って活動しています。
・具体的には、島の魅力を伝える島あるきガイド、料理体験やカヌー体験など、島民の協力による体験プログラム。また、今後は空き家を活用したゲストハウスを展開します。

第8回 関西元気な地域づくり発表会

歌とピクニック実行委員会

「何も無い」を地域資源と捉えたまちづくりとしての「歌とピクニック」

活動方針・目的

事業コンセプト：「都市と中山間部の新たな価値交流」を目的とした、持続可能な自給型まちづくり活動

事業背景：
兵庫県の中山間地域に位置する「丹波市」は、良質な農作物の産地として全国的に知られている。また、農業を基盤とした生活文化やコミュニティが色濃く残っている地域でもある。丹波市販売農家数は4,776戸であり、兵庫県下の10%弱を占める農業の盛んな地域ともいえる。肥沃な土壌が広がり、また山脈盆地による豊富な水資源からなる「丹波灘」とも呼ばれる独特の地形的特徴を持つことから、「丹波米」や「大崎青小豆」など、全国ブランド農作物を世に送り出している。さらに、全国的に農業従事者から「有機農業の聖地」と称されるなど、有機農業の発祥の地として、全国からの新規就業者を受け入れ、安全安心の食文化の拠点となり得る基盤がある。
このような全国に誇る「良質な味覚」と、その恵みを生む「豊かな里山」が丹波市には存在する。それを私たちは「おいしい里山」と定義する。しかし、一部企業や自治体の活動により丹波産の農作物のPRはあるものの、「丹波市」自体の観光という面でのPRは弱く、丹波米や歴史建造物、紅葉などの自然風景を含めた観光資源や、丹波市の強みである「味覚と自然の豊かな里山」や「強市部から日帰りで行ける事の出発点立地」を活かしきれていない現状がある。
また、「兵庫県観光局に関するアンケート」によると丹波市を訪れる観光客の平均年齢は39.4才と県内で一番高く、県内の観光客に占める35歳以下の割合が県平均53.6%であるのに対し、丹波市においては37.7%と県内の他地域に比べ極端に低い状況となっている。

昨年度は初年度の開催ながら、決してアクセスのよいと言えない山奥の「うぐいすの森」という自然溢れる会場を舞台に、同事業を10月8日、9日に開催し、大勢の予想を遥かに超える来場者数(2,000人以上)と関係者数(含む2,200人以上)が押し寄せ、大きな成功を収めた。
特筆すべきは、来場者の約半数は阪神間からの来場者で、これまで丹波市が取り込む事の難しかった20歳～30歳代の若年層、親子連れなどが多く来場する事により、事業自体の目的の成功を収める。
本事業は昨年度の成功をもう一度見直し、更なる飛躍と効果の発揮を目的とする。

第8回 関西元気な地域づくり発表会

特定非営利活動法人 HINT (ひんと)

地域の情報基盤の構築と地域情報の収集・活用

活動方針・目的

生活・医療・教育・産業・観光の地域情報を集積・発信し、産官学と地域住民の参画と協働によるICT利活用の普及と円滑な運用を推進する。HINTの活動を広く知って頂き、地域ポータルサイトを活用して頂くための各種セミナー・ワークショップを実施し、地域の情報活用性を高め、地域産業の活性化を循環的に加速させるプラットフォームとなることで、社会生活、医療活動、教育環境、経済活動、観光客の活性化の促進に寄与することを目的としています。

活動内容

主に近畿地方(2府4県および兵庫県内6地域)をカバーした地域ポータルサイトを構築運用し、地域情報の受発信を行っています。そして、ビジネスイベント・セミナー等の情報発信、クラウドサービスを用いたホームページ作成・ブログ作成・即戦力となるICTの利活用や広報戦略等についての無料研修の実施による中小企業・各種団体への支援、映像交換システムの提供によるケーブルテレビ事業者への映像コンテンツ流通促進、学校向け(学年などの小規模な単位)メーリングリストの提供による子どもの安全・安心の確保、「自治体とNPO法人の協業による、ポータルサイトとソーシャルメディアを利用した情報発信の可能性について」研究など積極的に取り組んでいます。

第8回 関西元気な地域づくり発表会

羽曳野市観光協会

百舌鳥・古市古墳群

活動方針・目的

百舌鳥・古市古墳群を世界遺産に！そして自分達の町に誇りを！

活動内容

「みさざなぎ」を発信することで、観光客を増やしたい。地域の活性化を図りたい。

第8回 関西元気な地域づくり発表会

滋賀県愛知郡愛荘町

「麻・藍・布」歴史の結びつきを今日に再生するまちづくり

活動方針・目的

古来、日本人が深く関わってきた「麻」と「藍」。その魅力を再発見し、日本文化のルーツを楽しみながら感じてもらうための体験型イベントを実施し、地域の文化資源を広く発信する。群馬県東吾妻町、徳島県藍住町ならびに本町、県域を越えたこれら三町が歴史の結びつきを現代に再生し連携することによって、相互の文化の発展に寄与し、観光・産業等の盛衰をはかる。

活動内容

初年度の東京展を皮切りに三町が回り持ちで、本物の体験、展示、販売等を実施する。事業趣旨に沿った他地域の団体等の参加も促し、事業を拡大していく。

年度	会場	内容
H21	東京都渋谷区 三木武夫記念館	東吾妻町：麻の展示、麻染ぎ体験など 藍住町：藍染の体験、展示、藍染商品の販売 愛荘町：麻織りの体験、麻布の展示、 奈良県奈良市月ヶ瀬奈良橋
H22	徳島県藍住町 藍の館	上記 + 山形県河北町の紅花染
H23	滋賀県愛荘町 近江上布伝統産業会館	//
H24	群馬県東吾妻町 コニファー岩櫃	//
	徳島県藍住町 藍住町コニファーセンター	上記+山形県河北町の紅花染、久留米餅、河内木綿・シンポジウム

第8回 関西元気な地域づくり発表会

東堅町自治会文化委員会

東堅町の歴史的文化財・人材を生かしたまちづくり「文化祭と文化講座」

活動方針・目的

小さな地域のささやかな活動、地域内に存在する歴史的建造物、文化財、人脈を活用し、歴史に学び、未来を展望し、地域住民相互のコミュニケーションと連携を保ち、望ましい共生環境を整える。

活動内容

文化講座は座学と野外学習を組み立て年各4回を基本とする。
文化祭は10月23～25日、亀岡祭りの期間に合わせて実施する。
どちらも、オープンで町内外からの参加も歓迎して実施する。
2006年より始めた切り絵教室の作品を中心に、同年、手芸、俳句、写真、絵画等を集めた
1回東堅町文化祭（作品展）を開催。有志による実行委員会形式の活動は5年間の継続を経て2010年自治会の直轄行事に昇格した。合わせて、数年前から進められていた町誌作成も本格的な取り組みが始まり、同年より、文化講座を開講している。
本年度には町誌完成させる為、編集作業を進めている。
活動内容は東堅町自治会のホームページで紹介している。(http://www.higabun.web.fc2.com)

第8回 関西元気な地域づくり発表会

特定非営利活動法人ハートフレンド

子どもが主人公になる居場所づくりを通じての人と人がつながる町づくり

活動方針・目的

子どもの居場所づくりに関する事業や子どもの基礎力向上のための事業を行うことで、社会教育の推進及び子どもの健全育成を図る。また、地域の大人と子どもの信頼関係を育み、地域を愛する心を育てるために、子どもの体験事業を行い、地域の保健・福祉を推進していく。そして、地域ぐるみで子育てをしていく活動を推進していき、障がいのある子ども達やその親に対しては、障害福祉事業を実施し、高齢者に対しては、認知症防止や介護支援事業を実施する等、地域における出席から高齢者までの総合的な共生福祉のまちづくり、及び地域の安全・安心のまちづくりを推進していくことを目的とする。

活動内容

- ① 地域子育て支援拠点事業（つどいの広場）の実施（委託事業）
ハート広場（大阪府東住吉区桑津） 心れんど広場・平野おやこの広場（大阪府平野区） 龍華おやこのひろば（八尾市）
- ② こどものてらこや事業（学習支援：学校を地域の力で応援しよう）
- ③ おとなのてらこや事業（認知症予防・早期発見・高齢者の方もいきいきと暮らす）
- ④ 文化館事業（子どものおそびを中心に創作・読み聞かせ・ハンドベル演奏など）
- ⑤ ジュニア・リーダークラブ（子どもの主体性と自主性を育む）、茶道教室
- ⑥ おとなの家校（ハーモニカ教室）
- ⑦ 児童発達支援等ディサービス（障がいのある子ども達の放課後の居場所づくり）
- ⑧ 東住吉区金魚すくい選手権大会（年1回、すでに8回実施）、子育てフォーラム実施

第8回 関西元気な地域づくり発表会

大阪狭山市食物アレルギーアトピーサークルSmile・Smile

重度のアレルギーっこの子育ての不安が減少し、保育園・幼稚園・学校生活が安全で安心して過ごせる地域連携協働のコミュニティ

活動方針・目的

・アレルギー・アトピーを持つ子どもたちが学校生活などを楽しく送れること、また、アレルギー・アトピー疾患のいる家族が少しでも治療方法や予防の向きに考え、明るくアレルギー生活を過ごせるようお手伝いすることを目的に平成16年8月に団体を設立。

活動内容

- ・アレルギーとアトピーに関する連続講座の開催（連続講座の一環として、学校給食の試食や調理実習を実施）
- ・スキンケアや緊急対応時の講習会を開催
- ・周囲の理解促進、親子交流のためのおそびうたコンサートを実施
- ・乳幼児のアトピー・アレルギーの電話相談窓口を運営（月1回）
- ・ブログやメールマガジンの情報発信
- ・情報交換・交流の場である定例会を開催（月1回）

第8回 関西元気な地域づくり発表会

特定非営利活動法人 住まいまもりたい

捨てるのもったいないものを有効利用する市民の輪を拡大！

活動方針・目的

高齢化社会が進むに連れ、行政サービスや介護保険に含まれていない市民の困りごとが多様化してきていることを実感する。その1つとして、大東市では粗大ごみを外まで出さない回収してくれない、しかし、タンスなど高齢者の方は出せないという現実がある。そのような困りごとをコミュニティサービスとして取り組むことで、組織の基礎をつくり若者の雇用の場を創出する。また、H18年商店街に拠点を設け、商店街の活性化のイベント事業などに取り組む。平成21年に商店街の理事長に就任、現在は副理事長として活動している。20%あった空き店舗が現在は0%になるという成果もできている。

活動内容

- 1、不要品や粗大ごみの分別、搬出事業
- 2、「もったいない情報サロン」の運営
- 3、ワンコインサービス事業（30分500円のサービスを提供）
- 4、ニートの受け入れ事業
- 5、のぞきほんわかスタジオの運営
- 6、商店街の活性化事業

第8回 関西元気な地域づくり発表会

K-style（けいすたいる）

地域に根ざしたさまざまなコミュニティ作り

活動方針・目的

「K-style」は、2011年2月、京都で唯一住民主導で生まれた総合型地域スポーツクラブです。地域の方々が健康でいきいきと生活できるように、様々なスポーツを体験する場を提供し、さらに地域の多世代の方々が集まることにより、地域内の交流のきっかけの場となるよう努めています。様々な活動をしていく中で、子育てしている家庭、特に乳幼児を持つ母親をサポートする必要があると感じ、新たに子育て支援の面でも活動を始めました。これからは地域の方々の皆さんの笑顔のために活動していきます。

活動内容

- ① スポーツ・現在主に小学生を対象とした各種スクール運営。子どもの健やかな心身の育ちをサポートし、次世代につながる人材育成の場として活動しています。
- ② イベント・地域の方々のコミュニティづくりを目的として、年に数回、多世代の方が楽しめるような様々なイベントを開催しています。
- ③ 親子支援「えむすまいる」・乳幼児を持つ母親が、自分の力を生かし、社会貢献・地域貢献できるようにサポートします。

第8回 関西元気な地域づくり発表会

パパの育児休業支援センター

男性が子育てに積極的に参加する地域コミュニティづくり

活動方針・目的

男性の育児休業取得が進みません。現在、約3割の男性が育児休業を取得したいと希望している一方で、実際の取得率は26.3%にとどまっています。また、日本の男性が子育てや家事に費やす時間は先進国中最低い水準にあり、そのことが女性の継続就業や出生率に悪影響を与えているとも言われています。

パパの育児休業支援センターでは、男性の育児参加に関する調査、研究並びに啓発活動を行うことにより、男性の育児参加を促し、男性も仕事と家庭を両立させ、夫婦で協力して子育てに関わっていくことで、子どもを産みやすく、育てやすい地域社会の実現に寄与することを目的に活動を行っています。

活動内容

当センターは、厚生労働省の「イクメンプロジェクト」に賛同し、地域や行政、社会貢献活動に取り組む企業・団体等とも連携をとりながら、着順の心と技を織り込んだ「パパの育児」セミナーを開催するなど、男性の育児参加を積極的に応援しています。具体的には、これからパパ・ママになる方とそのご家族の方などを対象に、父親の育児参加についての基本的な考え方、母親の育児を行うとの違い、実際に男性が育児を行う上で必要な視点や準備等について学んでいただくことで、男性の育児参加に対する関心を高め、地域で子育てに積極的に関わりたいと考える男性の増加につなげています。加えて、仕事と育児の両立に不安や悩みを抱える父親同士の出会いと交流の場を提供することで、子育てにかかる不安や悩み、負担感を軽減し、地域におけるネットワークの構築に取り組んでいます。

第8回 関西元気な地域づくり発表会

龍谷大学門前町サークル

西本願寺門前町に「にぎわい」を取り戻すまちづくりプロジェクト

活動方針・目的

本活動は、西本願寺門前町に「にぎわい」を取り戻すことを目標として、地域の人たちにまちづくりへの関心をもってもらうとともに、広く世間にも門前町の魅力を伝える活動を行なっている。西本願寺門前町は、京都駅北側に立地しており、京都の玄関口として、今後の京都の発展を支える重要地点である。本サークルは、1000年の都である京都が、大都市圏競争に勝ち残り、今後も発展し続ける基礎づくりを目指している。

活動内容

- ① 門前町の住民にまちづくりへの関心を高めよう活動
子どもにまちづくりへの関心をもってもらう、子どもから大人へ関心が伝えられることを期待して、下京彦小学校児童と門前町のまち歩き、それを絵にして絵画展の開催、その絵を組み込んだ伝統産業の製品に仕上げる活動。毎月16日早朝の清掃活動。仏具の「リン」を応用した風鈴の制作・住民に寄贈、「おひらde風鈴祭り」の開催。
- ② 門前町の魅力を世間にアピールする活動
仏具の「リン」をモチーフにしたマスコット「おひらちゃん」の制作・各地域でのイベントへの参加。毎月16日につくり市「門前町いちろく市」の開催。「しんらんさんグルメ」と称して、門前町をPRするスイーツの新製品の販売販売。門前町の歴史と現状を紹介したマップ・ガイドの制作。門前町カレンダーの制作（古写真と現在の写真を比較して、門前町の変遷が分かるカレンダー）
- ③ 普段の門前町での活動成果を基礎として、東日本大震災復興支援の取り組み

第9回 関西元気な地域づくり発表会

里楽

山添村の耕作放棄地の資源を活かしたむらづくり

活動方針・目的

奈良県山添村の耕作放棄地の増加を防ぎ、里山の再生を目的とする。その実現のため荒廃した里山に眠る資源の再発見と農を中心とした継続可能な活用方法を模索する。

農村・都市の住人を問わず広く賛同者を集め会員とし、耕作放棄地再生の過程やその結果を共有し、それから生まれる農産物やサービスを会員に提供すること。

活動内容

里楽（里山再生プロジェクト系農倶楽部の略称）は、平成22年結成された。山添村で増え続ける耕作放棄地を再生すること、またこうした活動を都市と農村の交流、村や里山の活性化につなげていくことを目指します。

最初に取り組んだのは、長年放置されてジャングルのような茶畑の伐採、切り開いた圃場内にドラム缶の炭焼き窯を設置し、茶の木を材料に木炭を作る。

整備した圃場には都市住民も参加し、ジャガイモ・玉葱・さつまいもなどを植え、収穫の際は取れたての野菜を使い「バーキュー（使用した炭は茶の木を木炭にしたもの）、など共に取り組んだ。

草刈り作業軽減のため、山添村にある観光施設「めえめえ牧場」の協力を得て、羊3頭を借り受け、春～秋の圃場に放牧しその除草効果を実証した。

また、耕作放棄地の茶園に無数に落ちる茶の実に注目、茶の実から搾油する取り組みを始めた。

第9回 関西元気な地域づくり発表会

星田山手ボランティア・街づくり推進会

郊外住宅地のボランティアまちづくり 一みんなの笑顔を求めてー

活動方針・目的

ボランティア活動は自主的な参加により地域住民に貢献し喜んでいただけることであると考え、奉仕活動や各種イベントを取り組み、活性化させることで地域住民が互いに知り合い、技術を発揮し、話し合えることで、みんなの幸せにつなげることを目標としている。

子や孫がいつの日か喜んでUターンいただけるよう、安心・安全に暮らせる住み良い魅力あるまちづくりを進めていく。

活動内容

星田山手ボランティア・街づくり推進会は平成19年に発足、既に活動していた「山ナリエ」（イルミネーション）によるまちおこしを加速してTVや雑誌で取り上げられるなど、又新年の「どんと焼き」「盆踊ら夏祭り」秋の「コスモス祭り」などのイベントや、交野市との連携による救急・救命講習会、防災訓練、傍宗川清掃活動、学童見守り隊の創設など、住民ボランティアによる積極的で多岐に亘る取り組みを行っている。

第9回 関西元気な地域づくり発表会

東堅町自治会文化委員会・伝統文化部会

小さな自治体・東堅町のまちづくり 伝統文化の継承と発展「猿楽能と町衆」

活動方針・目的

町内の活性化と潤いの基盤は文化活動と生活改善

A 伝統文化と行事の検証と継承は文化部門で企画と実践

B 高齢化社会に対応できる住みよい町づくりは環境部門で企画と実践

活動内容 A部門 小さな町に息づく文化力の継承と発展 歴史の検証と発展を実践する

地域に息づく歴史と伝統・その文化力は大切な地域資源

検証と継承で地域資源の枯渇を防ぐことが大切。

節季・節目を忘れた現代社会への継承

便利さととられ、代償の危険に目をつむる現代社会の見直し・もったいない文化の実践

活動内容

地域に残る伝統芸能「丹波猿楽能と庶民文化を考える」

第9回 関西元気な地域づくり発表会

箱の浦自治会まちづくり協議会

活動方針・目的

行政に頼らず、箱の浦地域のことは箱の浦の自分たちで解決する。

「いつまでも箱の浦に住み続けたい、箱の浦で育てよかった」といわれる地域に！

活動内容

別紙「箱の浦まちづくり協議会」の活動報告

第9回 関西元気な地域づくり発表会

東堅町自治会文化委員会・まちづくり部会

小さな自治体・東堅町のまちづくり 地域社会のゴミ処理 現在社会の避けて通れぬ課題の1つ

活動方針・目的

町内の活性化と潤いの基盤は文化活動と生活改善

A 伝統文化と行事の検証と継承は文化部門で企画と実践

B 高齢化社会に対応できる住みよい町づくりは環境部門で企画と実践

活動内容 B部門 小さな町の自治会の抱える諸問題解決の道筋を考え実践する

活動内容

小さな町の自治会の抱える諸問題解決の道筋を考え実践する

第9回 関西元気な地域づくり発表会

パパの育児休業支援センター

看護の力を発揮した男性が子育てに参加するまちづくり ～「子ども未来フォーラム大阪～広げようパパの育児休業～」開催を事例に～

活動方針・目的

当センターは、大阪市阿倍野区を拠点に、男性が同様の専門職から育児について学ぶ機会を保障するという活動方針のもと、地域の看護職の立場から、男性の育児参加を支援することを目的としたNPO団体である。

活動内容

平成25年度より阿倍野区子育て支援連絡会に加盟し、地域の子育て支援団体や社会福祉協議会、区役所の子育て支援課とも協力して、男性が子育てに参加するまちづくりに取り組んでいる。

第9回 関西元気な地域づくり発表会

京丹波町スポーツ少年団本部長

『双葉町応援隊 -KIZUNA-』被災地と心をつなぐ

活動方針・目的

- ◆ 友好町双葉町に対して息の長い応援活動に結び付けて行く。
 - ・ 仮設住宅の被災者と色々な角度から応援活動、交流を実施する。
- ◆ 双葉町を応援するという目標を掲げ地域一体となって人材育成、青少年健全育成に取り組む。心豊かな子供に育てる。
- ◆ 被災地の現状に合わせた応援活動を現地を訪れ継続的な活動について行政・仮設住宅自治会長と話し合い実行する。

活動内容

京丹波町スポーツ少年団が、東日本大震災復興支援ボランティア活動に立ち上がりました。子ども達ができる活動を・・・ということで、須知高校の協力を得、「食の宝庫という地元の良さを活かして、自分達でつくった野菜を被災地へ送り、学校給食等で使ってもらおう。」と平成22年3月にスタートしました。今で3回目の取り組みとなり子供達も何をすべきか？を理解しリーダーを中心に被災地へ送るメッセージも考えました。関係支援団体と話し合いを持ちながら「双葉町応援隊 -KIZUNA-」プロジェクトを結成し三ノ宮地域のジャガイモ、野蒜の会の梅干しも一緒に仮設住宅の皆さんに届ける事が出来ました。子供達と地域が一体となった取り組みです。

第9回 関西元気な地域づくり発表会

防災かまどベンチ実行委員会

みんなで作ろう！防災かまどベンチ

活動方針・目的

地震や台風などの災害に備え、万が一被害にあった時も、住民の手で「防災かまどベンチ」を使って食事を供給できることにより落ち着きを取り戻し、すぐに生活再建が出来るための防災力を養う。

活動内容

地域住民・行政・学校・企業・ボランティアなどが協働して、平群町災害時指定避難所に指定されている公共施設など15箇所に、5カ年計画で製作する。